

Offshore 8
1988

社団法人 日本外洋帆走協会発行 No. 161/300円
昭和63年・8月15日発行(毎月1回15日発行) 昭和52年7月21日第三種郵便物認可

日本外洋帆走協会発行 No. 161/300円

昭和63年8月15日発行(10月1日15日発行) 昭和52年7月21日第三種郵便物認可

第29回鳥羽パールレース・スタート

第29回鳥羽パールレース



スキッパーズミーティング,
右:加藤レース委員長
左:芳賀本部帆走委員長



大儀見会長代行, 鳥羽市漁協連絡協議会下村会長, 東海支部小林支部長による鏡割り

写真提供: 加藤蔵男

第29回鳥羽パールレースについて

レース委員長 加藤蔵男

いつまでも梅雨が終らない毎日, せめてスタートの日には晴れてほしいとの祈りが通じたのか, 早朝には青空がみえ, 小浜浦に絃うレース艇を久しぶりに引立たせ, 私を喜ばせました。レース運営艇5艇で10:00出港しました。途中地元漁船の見送りを受けヨセマル灯標近くに本部船を錨泊固定する。風向170°風速3m波高30cmリミットマークをスターボーのクロススタートになる様設定し, 今年より新しく信号艇として, コース前方約500mに設定した。スタート時刻が近づくにつれ, 風速5mでやや風上有利のラインとなり本部船付近に殺到してくる。スタート信号を発したときは, 30艇位がフライングしていたので, 即刻, ゼネラルリコールを指示, 本部船とリミット艇横に待機していたパトロール艇にゼネリコの周知徹底させるため発進させる。レース艇は仲々Uターンしてくれず, 次回スタート(30分遅れ)に間に合うか, やきもきさせられましたが, ようやく再スタートは間に合いました。またもや上有利のため, 本部船付近に殺到し, 水, 水, 水!! スターボー, スターボー!! etc 大変な混雑で, 5艇フライングしていましたので, リコール艇にパトロール艇から通告させましたが2艇は再スタートしましたが残る3艇はそのまま東方洋上に消えてしまいました。1300スタートラインを解除し, レース本部へ帰

港しました。(スタート時には艇速6~7kt位ありましたので新記録が出るのではと期待しながら)

以下思いつくまま, 各部について書いてみました。

①スタートについて

本年より信号艇を設定し, レーサー各位が信号がみやすい様にしましたが, フラグが小さいので, 見えにくかったと思います。来年からは特大のフラグを使用したいと思います。

無線連絡については各艇及び陸上本部に6台設定し, 緊密な連絡がとれてうまくいったと思います。本部艇, リミット艇, 信号艇共, 安心出来る艇の協力を得て, 安心して, スタートが出来ました。

誌上をお借りして御礼を申し上げます。

来年はフィニッシュ側へも行ってみたいと思います。

②フィニッシュ側について

最終フィニッシュまず大変御苦労をかけたと思います。来年は, 時間を都合して皆さんの御苦労をみせてもらい, 御手伝いもしたいと思っています。

③スタート時刻について

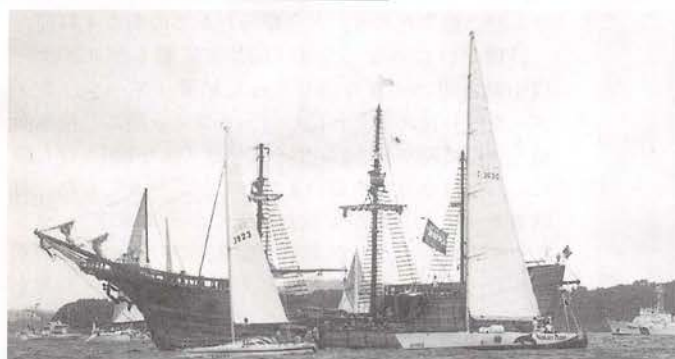
次回からも今年同様1200スタートでよいと思います。

④レーサーの服装について

短パン, Tシャツ, デッキシューズで仲々カッコよかったと思います。しかし本当は長袖, 長ズボンでのぞんでもらいたい。微風のときはなんでもないかもしれませんが, 風力が増すとケガの原因にもなります。



大漁旗を掲げ、レース艇を歓迎してくれた鳥羽漁協の皆様
鳥羽市長濱口光彦氏挨拶



マリガランテ号と〈波切大王〉



マリガランテ、アルサル船長挨拶

写真提供：加藤蔵男、河内道男

また日焼けと疲労にもつながります。

⑤漁船の見送りについて

例年通り温いお見送りを感謝しております。これからも仲良くやって行きたいと思えます。

花火もスタート盛り上げに、大変有効でした。

⑥パーティについて

前夜祭パーティは、鳥羽のフェリー“渥美丸”を使わせて頂きました。まず、大儀見会長代行の挨拶があり、鳥羽市長、観光協会ははじめ、地元関係者各位に御礼を述べられ、御自分の体験などと合わせ、鳥羽パールレースの歴史の重みなどを語られました。次に濱口光彦鳥羽市長から、本大会の名声も深まり、鳥羽市民挙げて歓迎し、今後の発展とレースの安全をお祈りする。また、マリガランテの寄港歓迎します。とのお言葉を戴きました。さらに高木鳥羽保安部長が挨拶をされ、次いで来賓の方々の名前が紹介されました。鳥羽市企画商工観光課斉藤課長、山本鳥羽市議会議長、下村鳥羽市漁協連絡協議会長、中村鳥羽市観光協会会長、吉田鳥羽旅館組合長、鳥羽ライオンズクラブ井村会長、鳥羽ロータリークラブ秋吉副会長、中野三重県南部海事広報協会会長、吉沢鳥羽海上保安部警救課長、大川中部運輸局鳥羽支局長、森下JR鳥羽駅長、吉崎近鉄鳥羽駅長、水谷伊勢志摩国立公園協会会長、鳥羽市観光協会小田専務理事、西山三重県議会議員、鳥羽漁協組合井村氏、坂手漁協組合寺下氏、安楽島漁協組合森下氏、石鏡漁協組合木村氏、国崎漁協組合辻氏、相差漁協組

合佐々木氏、等々数多く御参加頂きました。

次に久野隆作三浦市長のメッセージが代読され、本大会が鳥羽市・三浦市の親善に寄与されることにこの上なく喜びとする。とのお言葉を戴きました。さらに大儀見会長代行、鳥羽市漁協連絡協議会下村会長、小林東海支部長の三氏による鏡割りと続きました。ただエンジンの騒音でパーティムードがいまひとつ盛り上がりず、スタッフの懸命の努力にもかかわらず、全員がまとまらず、大変苦労した模様です。次回からは静かな場所で第30回の記念行事として、みなさんに喜んでいただけるようにしたいと思います。

また、同日10:00から、菅島水道でウエルカムレースが行われました。レースには鳥羽市内の子供たちが招待され、13艇が参加。大会前の重々しい緊張感とは裏腹に和やかな雰囲気で行われました。結果は1位…〈SUPER LUCY〉、2位…〈桃太郎〉、3位…〈NADJA IV〉でした。

⑦遠来の客

マリガランテ号に参加して頂き、大会盛り上げに花を添えてくれ、〈波切大王〉の参加も地元の方々に大変喜んで頂けたと思います。

地元の鳥羽市、観光協会、漁協、JC etc、全市を挙げて歓迎御協力頂きましたことを、深く感謝しております。

レース役員各位、及びスタート協力艇各位に、厚く御礼申し上げますと共に来年の30回記念にもぜひ御協力下さるようお願い申し上げます。



勇躍フィニッシュする〈CARINO〉
I-IIクラス1位、ファーストホーム総合1位

撮影：星島洋二、提供：ヨッティング

〈CARINO〉完全優勝記

古川 浩二

真夏の祭典、鳥羽パールレース。今年も今スタートしようとしている。例年になく戻り梅雨とか、曇り空の中、南東の風10ノット。ジェネラルリコールの後、PM 0:30ジャストスタート。今年もうまくいった。ヘディング（コンパス角度）100度、少し落とし気味で行く、風下から〈コンテッサ〉〈カザ7〉が切り上がってくる。かまうな、どうぞ好きなだけお昇り下さい。相変わらず風上に行きたがるやっちゃんあ…。こっちは我が道を行く、必ず（確信をもって）何時間か後に風は北に振れていく。

各地（御前・大島・神津・大王・浜松）の天気・風向・風速、確認済み、それまではとにかくスピードを最大限に挙げて、走り負けしないように、全神経を集中して前に出る。なかなか良いスピードだ、風下艇〈ビンド〉〈ラッキーレディー〉〈織姫〉がのびて行くなあ。風上艇団〈コンテッサ〉〈ウイル〉〈カザ7〉〈シエスタ〉

〈カレラ〉は昇らせ合いでもしているのか高さだけで延びてこない。良い位置に居る、どっちも見ながら走れる、いいぞ。波が悪くなってきて走らせ難くなってきた。揺れも不規則できつくなってきた。新人クルーが多いので酔わなきゃいいが、「オーイ皆、何もやることないが、しっかり頑張って座っているよ。それが仕事だ。」「ハーイ」「エライ元気がエーナ、返事だけとちゃうか、まいいか、しっかり行こうぜ。落ち着いたところでおそがけの昼食にしようか」OK 昨夜おそくまで寿司屋で散財して弁当まで作ってもらった。寿司と京都の森嘉嵯峨豆腐（からし豆腐ヒヤッコ）野菜は京都の加茂で一番美味しい時間帯にもぎって来た、キュウリと黄色いトマト、フルーツはバナナとプラムだ。最高だろう、どう参ったかこのナウイ料理。

料理だけでなく、〈CARINO7〉艇もデザイナー横山君と思いきり話し合った結果、キールとラダダーを作り替えることにし（ドルフィン型にし接水面積を大幅に縮小）、インサイドバラストを240キロも降ろし、後は余分な重量物を削ってシンプルにした。お陰でレーティングが少し上がったが（30.65F）、タックキングの立ち上がりが素早くなり、フリーの走りが素晴らしく上がって、おまけにスタビリエティーもあまり変わらず、先々週行なわれた関西ヨットクラブのクラブポイントレースで、ブッチギリの走りを確認。自信をもってこのパールレースに挑み、秘かに昨年（怪物〈ゼロ1〉にファーストホームを取られたが着順2位クラス1位総合ワカラン位）、一昨年（ファーストホーム・クラス1位・総合2位）と取り残したる“冠”総合優勝に打ち込む。すべてやることは全部やってきたんだ、敗けるもんか。〈ビンド〉〈ラッキーレディー〉〈ウイル〉〈コンテッサ〉〈シエスタ〉新しくなった〈カレラ〉〈カザ7〉恐くないぞ。こっちが段々前に出て行くぞ、もう天竜沖か早いなあ、少しずつ風が前に振れてきたんちゃうか。いいぞ予定どうりや。もっと振れる！ もっと振れる！！

「おい菊地、〈ラッキーレディー〉が昇って来たぞ。」菊地「しょうがないですね。相手は大きすぎます。無視しましょう。それより又風が振れましたよ。」「何度だ。」「全体で20度ぐらいになります。」「よし、少し早いがタックしよう。」風上艇団の顔を切る、狙い通りや、うまく行ったぞ！ コースはどうや、ちょっと角度がたらんなあ。しゃあないか又タックしたらええからこのまま進め、暗くなってきた。「航海灯を点けろ、辺りにヨットの航海灯見えるか？」返事ナシ。やっぱ経験がないと夜はカンが働かんやろな、クルーでナイトレースが初めてが半分いる。これからが大変や、とにかくこのままポートタックで行くところまで行こう。ちょっとぐらい潮に乗って持って行ってくれるやろ。風が強くなってきた。No. 2に変えよう。「タックチェンジで行くで。」「1番ハリヤードが動きません。」「馬鹿ちゃんと調べて見い。」「あきまへん。」「あの馬

鹿何してたんや。」どないしょ、しゃないなヘビー降ろしてから替えろ、やばいな、慌てるな。「ゆっくりやったらええから。」何とか替えられた。えらい時間掛かったな、まいいか丁度タックしときたかったから、よしとしよう（この変わり身の早さ、伝統は受け継がれている）。これで安定して来た、飛ばして行こう、横に航海燈が見えるな、〈ラッキーレディー〉やいつまでも側にいるなあ、賑やかでええで、寂びしのうて、そやけど波悪いなあ、小型艇は地獄やで、たまらんやろうな。うちのクルーもそろそろ酔いだしよった。ゆうべ遅くまで騒ぎ過ぎた。お陰で、僕も寝不足や。頭痛いわ。ちょっと2時間寝てくるわ……。

「灯台が見えます。」目が醒めた。相変わらず波悪いなあ、気分悪いわ、ちょっと吐いたろ、さっきの肉、油悪かったな、ちょっとすっきりした。「ティラー替わろか、風も強いなあ20ノットあるで、No.3に替えよ、今度は上手く替えてや。……なんやえらいパワーないセールやなあ。あかんもう一回No.2に戻せ。」セールチェンジうまなってきたで、たいしたもんや気合い入ってるぞ。明るくなってきた。「あれ、神津島寄りに一艇ヨットがいるで。」マストヘッドリグや、〈コンテッサ〉は、どっから出て来たんやろう。うまいこと来よったなあ。さすが〈コンテッサ〉や。島回りは、上手いで、認めたら。大臣乗ってへんのに気合い入ってるなあ。豆腐やったん間違いやったかな。まてまて〈コンテッサ〉がトップやったら、俺とこは二番やで、前は何にも見えへんで、後は〈ラッキーレディー〉とオーバーセールぎみに来る〈シエスタ〉だけしか見えへんで、よっしゃ。よっしゃ。ええぞ。ええぞ。

AM 6:30 〈コンテッサ〉は、どうも式根島の西に行くみたいやな、あの島の間通るみたいやで、大丈夫か、たしか真ん中に隠れ岩あったやろ。大丈夫やって、見える見える。それに〈コンテッサ〉が案内してくれるって、願ってもないこっちゃ。付いて行こう。〈コンテッサ〉と何分開いてる?」「10分ぐらいとちやいますか。後の〈ラッキーレディー〉とは5分、その後の〈シエスタ〉は7分ぐらいです。」その後は一艇も見えんな、よっしゃ相手はこの3艇だけや、こっちが一番レーティング低いし有利やで、後ははっきり勝ってるし相手は前の〈コンテッサ〉だけや、「離されんと付いて行け。」

このままの風やったら昇り一本のタッキングマッチや、11~12時間ぐらいでフィニッシュや、とゆうことは30時間のレースとなると〈コンテッサ〉に15分以上離されたらタイトル全部持っていられる。それはないで、ファーストホームはともかく総合優勝は絶対やる訳にはいかん。「絶対離されるな。気合い入れろ!」大島に近付いて来た。島寄りに潮ひらいに行こ。〈コンテッサ〉もタックして同じことを考える。〈ラッキーレディー〉が後でどんだん大島の東に向って行く、なんでや、どないしたんや。見えんようになってしもた。

あんまり潮ないなあ。風早にもう少しよせるか、いつもある信じてる潮ひらいに行こう。〈コンテッサ〉にえらい離されたで、えらいこっちゃ。スピードなんぼ出てるね。6.5ノット対地5ノット?あかん全然走ってへん。「タックしよう、スターボータック対地スピードどや。」「凄いです8.5ノット出ています。」ほんまかいな。ぐんぐん〈コンテッサ〉に追い付いて行く、5分も開いていないな。〈シエスタ〉はかなり差が開いて、かすかに見えるぐらいになった。あの潮目は効いたな、後2時間ぐらいでつくで、そろそろ〈コンテッサ〉と一騎打ちや。乗って来るかな、タックしたろ。おっと乗ってきた、抑えて来たぞ。よっしゃ、これから振れタックでいくぞ。気合い入れて行け。タック何回目かな、だいぶん縮まった。こっちは有利や。振れタック・立ち上がり・角度どっちも勝っている。後3回もタックしたら勝よ。あれあれ落ちて行くしめた前を切れるで、やった。

今度はこっちが抑える番や、なさけ無用徹底的に抑えていけ。フィニッシュは目の前だ。このまま行けば絶対完全優勝だ。「どじるなよ。」全員なんとなく無口になってきた。どうしていいのかわからず、黙っている。大綱をかわした最後のタックだ。さあ、フィニッシュラインが見えてきた。最後の一走りだ。プアー——ン!フィニッシュだーい!

やった、やった!!完全優勝だ。かっかっかっか!万歳!万歳!万歳!!

レースを終わって何か簡単に勝利を収めたようで、きっと条件がうまく揃ったのだと思われる。まるで〈CARIÑO〉の為にレースが行なわれたような錯覚におぼれました。ただ、神津島からフィニッシュまで12時間も引っ張ってくれた〈コンテッサ〉の健闘と露払いに感謝したい。

毎度ながらレースの運営と惜しめない協力をして下さった方々に心から感謝したい。(また、僕達を暖かく迎え包んでくれた関東のライバル仲間達に感謝したい。ありがとうございました!)

全能の神と理解ある家族と仲間たちへ

ありがとう!

クルー紹介

古川浩二(オーナースキッパー) 少しずつ歳を感じつつ若者ぶってる二枚目半。

松本剛一(マネージャー・ランナー) 歴代マネージャーの中でピカイチ、余暇、食欲、飲欲、寝欲、大工、責任感、力不足。

猪狩 博(トリマー) 何時も忙しそうで、仕事ばかりしている様に見える。仕事とカミサンとヨットに挟まれた、中間管理職。

黒崎友三郎(マストハンド) 芦屋のボンで、普段は良く喋るのにヨットに乗ると無口になる。10月に結婚を控えて又なぜか無口になった。理解ある奥さん

であることを祈る。

北村知司(ジブトリマー) 一番古参クルー。何事も一生懸命なんだが余裕がない。もう少し先手が打てるようになれば、一人前。気長に待とう。

吉田伸利(パウマン・ナビゲーター) こっちから聴いたり言ったりすれば、そつなくこなすが、自分から主義主張したことがない。新人類。今度のレースは良くガンバツタ。

神野卓也(ウインチマン) 松本マネージャーの部下で、ガンバリ屋で力持ち、難は漣が立つと船酔いが始まる。これからの男。

成瀬和博(ランナー) クルーになって2カ月。琵琶

湖での経験しかなく心配したが、一生懸命なのがいい。これから、これから。

斉藤昌久(ハリヤード) 成瀬の同僚で一目無口で暗いイメージ、生きたゴミ箱と言われる大食家。おっとどこいなんと慶応ボーイやて。

田平由弘(ウインチマン) 成瀬・斉藤・三人組同僚。一番若くて身が軽い将来のパウマン・三人一組セットな感じ。ガッツダ。

菊地 透(トリマー・タクティクス) 助人。ダイヤモンドセールメーカー社員。一見童顔で陽気な男。若く見えるがちゃんと所帯を持って5才の子持。なかなかの判断力と行動力を備えている。感謝。

Aコース



↑ 〈SIESTA〉 I-IIクラス 2位, 総合3位



↑ 〈CONTESSA VII〉 I-IIクラス 3位, 総合4位



↑ 〈一寸法師〉 III-IVクラス 1位, 総合11位



↑ 〈MRS. MEDAUSAE〉 III-IVクラス 2位
総合13位



↑ 〈写楽〉 III-IVクラス 3位
総合15位



↑ 〈SILPHIDES〉 V-VIクラス 3位
総合7位



↑ 〈FIDELIA〉 V-VIクラス 1位, 総合2位



↓ 〈AZIZA〉 V-VIクラス 2位, 総合6位

撮影: 星島洋二
提供: ヨッティング

第29回鳥羽パールレースを終えて

〈スーパールーシー〉長谷川富延

7月19日より24日の間は海の祭典と鳥羽パールレースで非常に忙しい毎日であった。19日には12m マッチレースサポート・東京テレビ取材・日本チャレンジチームパーティ、20日には海の祭典 式典セレモニー、21日に午前2時〈スーパールーシー〉を鳥羽に回航。そして同日10時スタートのウエルカムレース参加と分秒さぎみのスケジュールだった。鳥羽の子供3名を乗せ、クルー3名でレースに参加した。参加艇は13艇であったが、クルー同志苦労した結果優勝した。2年連続の優勝である。

そして21日の前夜祭!!

私はパールレース前夜祭の企画、司会進行を担当してから5回目を迎え、今回は鳥羽JCの意見を取り入れ伊勢湾フェリー新造船「渥美丸」船上で行う事になった。

ヤマハとリクルートよりの協力により資金的に余裕があったため例年より参加費用を安くし、関東方面より「鳥羽の前夜祭は高すぎる」という意見に少しでも応えようと努力した。

パーティは次号 Offshore にゆずるとして、さて今度は、パーティ後、頭を切り変えレースの事を考えなければならない。もう床に入り寝ているクルーを起こし、気象・潮汐情報を基にコースの検討を行った。

昨年に進水した艇よりクローズの走りが悪く悩んでいたが、マストチューニングを3週間ほど前より変化させ、クローズの走りを向上しようと努力した。その結果、0.2~0.4ノット位は早くなった様である。マストステップを12m/m前に、フォースティを28m/m長く、マストジャキにより1m/m単位でマストサイドバンドを調整出来る様にした。後はショアーセイルの昨年2月に作った古いケブラーセイルを使用する事に決めていたので、そのメインセイルのラフカーブに合わせた細かな調整、チェックステー・ランナーバックステー・パーマネントバックステーのトリムの位置変更、ブームパンクのスプリング位置変更等々数え上げたらきりが無いが、どうやらセイルに合ったマストバンドが得られた様である。また、各ハリヤード類のワイヤーを取り外し、全部ダイニーマロープに取り変えた事により重量が50%位は軽くなり他の各ガイ・シートもダイニーマロープに変更した。また、クローズ時のうねり状態に合わせたゼノアラフ部の適度なサギングを得られる様なフォーステータンションメーターを確認し易く、ライナーの微調整を行える様にした。

ピッチングを少しでも減少させるため、水・燃料、食料は予定より30kgほど余分に積み、すべて艇の中心部に集中させた。その結果クローズが中心であった今回のレースにマッチし良い結果が得られたと思いま



(SUPER LUCY) 総合1位

撮影：星島洋二、提供：ヨットイング

す。

一昨年は優勝艇〈サチ〉と神津島回航は同時で、その後先行したと思ったがミスコース、タイムリミットでリタイア、昨年は優勝艇〈ホライゾン〉より2時間早く神津島回航したが、その後のミスコースで涙を飲んだ。今年こそはと思っていたところ、クルー全員が150マイルコースに参加することで以前より全員一致していたらしく、私としては180マイルで参加したかったが、断念した。

22日正午、スタートラインが異常に脹れ上がっているがそのままスタートを切る。レース委員長の加藤蔵男さん念願のゼネリコかなと思っていたら、やはりゼネリコ、120艇以上のゼネリコも絵になっていた。12:30ライン上の中心よりスタートを切る。やや下艇の方が先行している様だ。気が付くとコースを115°位に取っている。無意識のうちに私の手は180Mに参加している様だ。

2時間後コースを徐々に100°まで変更する。ロラン方位からすると岸に向けられている様でどうも潮に流されている様子である。風は前に少しづつ振れている。クローズドリーチよりクローズになり他艇の艇速と比較する。同型艇より速い。同クラスの艇よりもポテンシャルはある様だ。あと残すはコースだけと思いながら浜岡原発まで風の振れを待ちながら突込み、10°振れ沖に出す。沖出し30分後、御前崎に向けタック、また、振れを待つ。30分後御前手前0.8マイルにて沖に出し波勝に向けタックをする。その後ラムラインより5マイルほど北に昇ると急に風が落ちた。4~2ノット位しかない。しまったと思い沖に出す。下手後方には7~8艇が止まっている様だ。沖の艇に遅れなければ良いと思った。10分ほどすると元の風に戻り駿河湾への入り潮を避けながら午前7時前に御前崎沖3マイルをクリアする。風は20~26ノット、1ポンリー

フの No 2で6.5~7ノット(サービスメーターによる), そのままのレグで神子元を通過し利島方向へ足を伸ばす。やや霧がかかり先行艇・後続艇が確認できない。どのポジションか分からないまま30分ほど過ぎ、後続艇が1~2艇確認できた。大島と稲取の中間を狙いつタックした。

その後、下側にスピードの早い大型艇を確認。そのままのレグを伸ばし大型艇に合わせ大島岡田港を向けてタックする。下側にいた大型艇がやっと確認できた。

〈月光〉である。全員気を取り戻しタクティクスに集中する。大島風早方向に向かっている〈月光〉は下げ潮のため岡田港方向に流されている。風早沖4マイルラインでタックし風早沖の上げ潮を狙う。その後下側に〈ブレイザー〉を確認する。X-99で私の同級生がオーナーである。果して〈ブレイザー〉がどの位置にいるのか、全く判断できない。先行艇に〈月光〉、後続艇に〈ブレイザー〉、たぶんきつといい位置だろうと決めつけ、艇のベストスピードを常に保つ様、全員で気合を入れなら艇速重視で走る。その後、後方に〈コンテッサ〉、〈カリニョ〉を確認。2艇でタッキングマッチを行なっている。Aコースの2艇が激しく競い合っているのを考えるとAコースのファーストフィニッシュを狙っているのが分かった。2艇に抜かれるのを少しでも遅くするため、常に別レグを取りながらフィニッシュ手前5マイル地点に来た。上に〈カリニョ〉、下に〈コンテッサ〉。両艇に挟まれながら三崎沖0.5マイルでタック。〈カリニョ〉、〈コンテッサ〉を水先案内代わりに大計網も気にせずそのままフィニッシュラインを横切る。フォグホーンが鳴る。「お疲れさん」コミッティーの音が聞こえる。サービスボートが近づき、缶ビールが投げ込まれる。「お疲れさま。写真を撮ります。おめでとうございます」いろいろな

↓〈織姫〉総合2位

声が聞えて来る。何がどうなったか理解できないまま「何着ですか」と聞く。「6着です。おめでとうございます」と返答がある。その後〈ブレイザー〉がフィニッシュ。サービスボートから同じ内容の音が聞えて来る。きつとどの艇にも同じ事をサービスボートの人が言っているのだろうと、全員妙に納得。〈ブレイザー〉に「お疲れ」の声を掛け、三崎マリンに入港。

それにしても今まで無かった最高の受入体制だな……と話をしながら舳りを終え着艇申告へ本部に行き始めて結果を知ったのでした。本部の方々、フィニッシュ後の疲れも吹き飛ばしてしまう様な受入体制でした。有難うございました。

今回乗艇したクルーを紹介します。

浅井高保 36才, 〈ルーシー〉の古参でありボースンをしています。名古屋栄にifというスナックを営んでいます。NORC 東海支部のメンバー, J24の会員, 等の溜り場になっています。名古屋へお越しの際はTEL 951-2233へ。ヨットの話でも!!

藤谷有司 31才, 不動産会社の御曹子。最近ヘルムスの腕が上達し, 安心して任せ熟睡可能な, たよりになるヘルムスマンです。

水越 寛 31才, 水越タオルの御曹子。最もひょうきんな男。人を寝させない楽しい話題の持ち主。夜に強く昼に弱い夜行性人間。

竹島吾郎 31才, 上下水道の事はお任せ!! 設備屋です。無言のうちにジャストトリムをするベストトリマー, 昼に強く夜にも強い。ヨットに乗れば不眠不休のガッツマンです。

脇村真司 29才, レース中に誕生日を迎え三崎で祝いました。インショアーに強くオフショアーに弱い琵琶湖育ちのゲロゲロマンです。でも今回は全てに全力を尽しました。

〈SEE ADLER V〉ファーストホーム, 総合3位



B
コ
ー
ス

写真提供
船越康正
西岡一康



ファーストホームを狙う!!
壮絶なマツチングレース
を展開する(セアドラー)
一と(織姫)

進水10年目の総合優勝

＜BYE-BYE I＞清川 恒

〈バイ・バイ〉は10年前の第19回鳥羽パールレースが処女航海です。初出場・総合2位の成績でデビューしました。その後色々のレースに出場し、自分達なりに輝かしい成績を収めて来たと思っています。世界を股にかけて飛び廻っているデザイナー、高井理氏のターニング・ポイントになった艇ではないでしょうか。青山学院ヨット部OBの素晴らしいクルーにも恵まれました。ある年度では、出艇すれば優勝という年もありましたが、我々グループオーナーは、御多分にもれず金の切れ目が縁の切れ目。次第にレースから足が遠のき、横浜港沖の釣り船、港内遊覧船に変身していました。

進水から10年、エンジン不調、セールもクタクタ、艇内も乱雑。この際クルージング艇に大改装しようという事になり、エンジンを積み換え、マストを軽くし、キャビン内の不要備品の整理・廃棄、キャビン改装をしたところなんと！喫水線が10 cm 近くも上ってしまったのです。そこでこの改装に多大の貢献してくれた今回のクルーでもある、関、吉野、坂本、遠藤、山内君等と相談。お祭りレースの鳥羽レースに出てみよう！衆議一決。新しいセールを発注、青学ヨット部O.B 蓑浦（ヘルムスマン）、尾村君に連絡、オーナーグループから、パラストにも役不足の清川が参加しレースに望みました。7月22日ゼネラルリコールの後安全にと風下側よりスタート、一路油壺へ。例年なら梅雨明けの青空の下、缶ビールを抱えセールの日陰を捜してウロウロするのですが、今回は「強風のバイバイ」にお誂え向きの風が吹き、沖合いでミーティングする艇も少く、視界の悪いなか他艇を捜しつつゴールしました。レース中も皆力まず、坦々と風に合わせて



撮影：高坂武雄

船を滑らせたのですが、ゴール直後「記念写真を撮ります」の声に「もしや勝ったのでは！？」と心が浮き立ちました。結果は5年振りに進水10年目の艇で出場して総合優勝。勝因は乗り手の技量は勿論ですが、高井理氏のデザインによるところが大きいと思われます。レース内容の詳細を書き忘れたのですが、私はキャビン内で船酔いと格闘しており時計もレース海面状況も殆んど見ていないので雑感を書かせてもらいました。しかし焼けばつくり火が着きそうです。更に10年後進水20年目の艇でレース出場するのも面白そうです。最後にコミッティーの皆様御苦労様でした。

CRクラス



↑ 〈FRENCH KISS〉総合3位

← 〈BLAZER〉ファーストホーム、総合2位

撮影：星島洋二 提供：ヨッティング

着順3位であったが、網代崎と定置網の間を通過、おしくもDSQ (AMIRAAL)



写真提供：船越康男

鳥羽レース受入れ報告

油壺フリート 藤田弘治

今話題のリクルートにスポンサーになっていただきパールレースの受入れをはじめもう4年目になります。最初はフィニッシュ艇を歓迎しつつ皆でパーティをして旧交を温めたいというものでしたが、フィニッシュ時間が違いすぎてとても無理とわかりました。有志で始めたことも今では関東支部の行事となり各フリートと関係団体で実行委員会をつくり、それぞれが分担制でやっております。ビールの投込みはシーボニア・小網代フリート、泊地整理は油壺・諸磯フリート、テンドーサービス・シャワー等は油壺ヨットクラブ、プレゼンテーションはABYC（油壺ベイヨットクラブ）、バーベキューは油壺湾特泊協、また海上で大型漁船「丸十丸」が網にかかった艇を引き出したり、夜間艇を照らしたりしていたのを御存知でしょう。この船は三青会（三浦を愛する青年の会）のメンバーの小網代の船なのです。この他にも三青会には三浦市民パールレース見学会の企画、神奈川県ヨット無線協会への協力要請等いろいろお世話になりました。それぞれの部門の活動、ご苦労については皆さんにレポートしていただきたいと思います。パールレースは日本最大のエントリーをほこるレースです。初心者からベテ

三浦市長久野隆作氏挨拶



〈CARINO〉古川オーナースキッパーとクルー
↓総合優勝・ファーストホームで、なんとカップが12!!



油壺オーナーズクラブ ガーデンパーティ

ランまでいろいろな楽しみ方のあるレースです。そしてこのレースの良さは、年に1度、古い友人にあえる、新しいヨット仲間と知りあえる、人と人との交流にあるのではないのでしょうか。またそれは参加艇の間だけではありません。運営、ボランティアの皆さんも同様ののです。

皆さんが今回のレース、受入、スタートをどう感じたか？自分だったらこうやるのに、いろいろな情報を、感想をお知らせ下さい。そしてあなたの艇が古くなって、クルー不足で、または何らかの理由でレースに出られなくなった時、ぜひ運営ボランティアでレースに参加して下さい。皆でつくりあげるレースをぜひ育てていきたいと願っています。

表彰式



フィンランド大使館クラス・ヨーラン・ビューステッド商務官よりフィンランドカップを受ける〈バイバイ〉

CRクラス総合3位、〈FRENCH KISS〉のメンバー



写真提供…関東支部広報委

Aコース 距離 180M

CLS	SAIL No.	艇名	オナー	TYPE	R. ft	ハナルティ %	T. C. F	到着時間 M D H M S	所要時間 H M S	修正時間 H M S	到着順位	総合順位	クラス順位
II	2211	CARINO	古川 浩二	YOK-40	30.64		0.8135	7 23 18 21 55	29 51 55	87463	1	1	I-II
V	3737	FIDELIA	船越 肇	TA 30	22.02		0.7292	7 23 22 18 1	33 48 1	88730	18	2	V-VI
II	3803	SIESTA	川口 正敏	YOK 40	31.28		0.8192	7 23 18 38 23	33 8 23	88886	3	3	I-II
II	188	CONTESSA VIII	石原 樹太郎	DOU 42	32.32		0.8285	7 23 18 24 46	29 54 46	89218	2	4	I-II
II	3355	雪風 V	斉藤 昌邦	YOK-40	30.12		0.8088	7 23 19 15 9	30 45 9	89541	5	5	4
V	3103	AZIZA	佐藤 美紀	YAM-R30	22.90		0.7385	7 23 22 16 43	33 46 43	89804	17	6	V-VI
V	3002	SYLPHIDES	蒲谷 和行	YOK 32S	22.92		0.7387	7 23 22 43 22	34 13 22	91009	21	7	V-VI
II	3537	WILL	小田 良司	FAR 40	30.45		0.8118	7 23 19 55 20	31 25 20	91831	7	8	5
II	1777	CAZA-7	深見 祐二	TAK 41	30.40		0.8113	7 23 19 57 11	31 27 11	91864	8	9	6
I	2210	CARRERA	渡辺 行彦	FAR-43	33.08		0.8351	7 23 19 12 31	30 42 31	92321	4	10	7
IV	3130	一寸法師	土手 秀三	Y-34R	24.36		0.7535	7 23 22 34 29	34 4 29	92431	20	11	III-IV
V	3700	BOOMERANG	加藤 強	YOK 30S	22.92		0.7387	7 23 23 36 4	35 6 4	93345	24	12	4
IV	3044	MRS. MEDAUSAE	木原 和喜	TAK 33	24.04		0.7503	7 23 23 9 6	34 39 6	93597	23	13	III-IV
II	3600	VIND-7	小林 義彦	TAK-42	32.36		0.8288	7 23 19 57 26	31 27 26	93858	9	14	8
IV	3809	写 楽	二士行	YAM 34R	25.17		0.7616	7 23 22 53 39	34 23 39	94301	22	15	3
V	1725	SUMMER GIRL V	馬場 益弘	YAM-R30	22.85		0.7380	7 24 0 0 33	35 30 33	94341	26	16	5
III	3006	BORN FREE	佐藤 泰一郎	DER-38	28.88		0.7974	7 23 21 28 48	32 58 48	94674	11	17	4
V	2677	GREAT PEOPLE	藤野 真子	YOK 31N	22.68		0.7362	7 24 0 15 8	35 45 8	94755	28	18	6
I	3224	LUCKY LADY	稲葉 文則	TAK-46	35.62		0.8568	7 23 19 29 32	30 59 32	95595	6	19	9
V	3228	ALPHA	國 健治	YOK-32	22.61		0.7354	7 24 0 36 36	36 6 36	95599	31	20	7
IV	3606	BOY	山田 隆	YAM 34R	24.96		0.7595	7 23 23 48 11	35 18 11	96526	25	21	5
III	3389	NADJA IV	白崎 謙太郎	TAK 39	29.00		0.7985	7 23 22 29 17	33 59 17	97702	19	22	6
II	3357	SPICA IV	室井 誠	YOK 40	30.36		0.8109	7 23 22 0 55	33 30 55	97839	15	23	10
IV	3841	JUST 6	堀田 和正	YOK-33R	24.92		0.7591	7 24 0 21 43	35 51 43	98002	30	24	7
II	3755	BJ-V	猪狩 光清	F C 12	30.91		0.8159	7 23 21 58 27	33 28 27	98322	13	25	11
IV	381	八丈 V	近藤 樹之	H T 34	25.54		0.7653	7 24 0 21 28	35 51 28	98791	29	26	8
II	2312	NACHI VIII	沢野 昭治	DOU-42	32.06		0.8262	7 23 21 48 49	33 18 49	99085	12	27	12
IV	3519	LAVIEN ROSE	岩田 洋二	J - 41	30.01	5	0.8078	7 23 21 15 22	32 45 22	100020	10	28	13
II	3525	FLAWLESS	鬼頭 修治	YOK-33	24.38		0.7537	7 24 1 36 53	37 6 53	100704	33	29	9
III	3922	ANI	井上 美修紀	X372	28.19		0.7909	7 24 0 54	35 30 54	101120	27	30	10
V	3426	DANCE OF MAGIC	原田 八郎	TAK 30	21.90		0.7279	7 24 3 20 12	38 50 12	101769	36	31	8
V	3711	RACCOON	弘 義行	YR 30	22.60		0.7353	7 24 3 9 51	38 39 51	102347	35	32	9
V	3387	BASIC	小坂橋 博行	YOK 28	21.58		0.7245	7 24 4 3 13	39 33 13	103164	39	33	10
V	3706	長 良	矢野 敏邦	YOK32	22.84		0.7379	7 24 3 44 9	39 14 9	104228	37	34	11
IV	2221	梓	杉村 直樹	Y-33	24.62		0.7561	7 24 2 47 54	38 17 54	104247	34	35	11
V	3888	PHOEBE	二宮 宏光	YOK 31N	22.46		0.7339	7 24 2 41	39 32 41	104479	38	36	12
I	2112	FUJIII	藤本 達雄	FRE-45	36.78		0.8664	7 23 22 12 2	33 42 2	105113	16	37	14
V	3494	ARC-EN-CIEL II	福田 祐一郎	YOK 31N	22.58		0.7351	7 24 4 43 34	40 13 34	106453	41	38	13
V	3827	CHOVE CHUVA	山本 秀紀	YOK-30S	22.88		0.7383	7 24 4 45 12	40 15 12	106989	42	39	14
III	120	DONGAME 8	渡辺 修治	WAT-36	29.36		0.8018	7 24 1 35 26	37 5 26	107061	32	40	12
I	3339	風見鳥	神 正寛	TAK-43	40.46		0.8960	7 23 21 59 21	33 29 21	108023	14	41	15
V	3670	再 見	高橋 伸博	KUM 31	22.53		0.7346	7 24 5 50 31	41 20 31	109331	44	42	16
V	3558	MAY BE	小川 利男	YOK 31N	22.57	5	0.7350	7 24 4 16 5	39 46 5	110488	40	43	16
IV	2640	サンビーム II	中村 正三郎	KIH-33	24.49		0.7548	7 24 5 38 14	41 8 14	111781	43	44	13

第29回鳥羽パールコース成績表

CLS	SAIL No.	艇名	オーナー	TYPE	R. ft	ペナルティ %	T.C.F	到着 M D H M S	所要時間 H M S	修正時	到着 順位	総合 順位	クラス 順位
V	3518	は組	野口 隆司	YAR 30	22.57		0.7350	7 24 7 1 23	42 31 23	112516	45	45	17
V	210	QUERIDA III	竹内 聡一	HIT 31	22.49		0.7342	7 24 8 32 3	44 2 3	116388	46	46	18
V	2970	POINCIANA	大杉 文哉	U 30	21.13		0.7196	7 24 10 2 17	45 32 17	117969	48	47	19
V	3256	綾 III	中根 康雄	YOK 31	22.28		0.7320	7 24 9 51 38	45 21 38	119534	47	48	20
III	2477	朝 鳥	田村 慎一	DUB37	27.12		0.7807				RET		
III	3360	ELECTRON	小高 敏夫	YAM 39	29.04		0.7988				RET		
IV	2765	OCEANID	吉田 節美	YOK-31N	23.01		0.7396				RET		
IV	3839	海援隊	永田 敬二	HOL 33	24.44		0.7543				RET		
IV	2272	BIG IVY	中野 修	HOL 33	25.63		0.7662				RET		
V	1190	HERIOS	宮崎 順吉	PION10	21.58		0.7245				RET		
V	1659	HASTAMANANA	杉本 幸夫	TAK-30	22.32		0.7324				RET		
V	3386	SUPER ESMERALDA	天野 幸英	YOK 30N	22.32		0.7324				RET		
V	1155	一乗 III	青山 恒昌	YOK 31N	22.37		0.7329				RET		
V	2500	HORIZON V	嶺瀬 俊彦	YOK 31	22.38		0.7330				RET		
V	3344	SUPER WAVE	長坂 取	YR 30	22.62		0.7356				RET		

Bコース 距離 150M

CLS	SAIL No.	艇名	オーナー	TYPE	R. ft	ペナルティ %	T.C.F	到着 M D H M S	所要時間 H M S	修正時	到着 順位	総合 順位	クラス 順位
V	3255	SUPER LUCY	長谷川 富延	YOK 31	22.47		0.7340	7 23 18 31 19	30 1 19	79330	4	1	
II	3335	織 姫	古川 保夫	FRE 41	31.49		0.8211	7 23 15 27 48	26 57 48	79703	2	2	
II	3233	SEE ADLER V	堀内 滋彦	DOU 42	31.99		0.8255	7 23 15 27 24	26 57 24	80110	1	3	
IV	3163	EL MARINERO	佐木 武夫	Y-33	23.36		0.7433	7 23 19 25 7	30 55 7	82734	5	4	
V	3414	OTSHOSAN	井上 一典	YOK 32S	22.88		0.7383	7 23 20 18 28	31 48 28	84541	6	5	
V	3333	TABATHA III	久保田 茂	YOK 31	22.37		0.7329	7 23 20 46 17	32 16 17	85146	7	6	
II	2000	月光 V	並木 茂士	FRE 41	31.05		0.8172	7 23 17 36 34	29 6 34	85638	3	7	
V	3840	DREAM 3	杉山 芳孝	Y 30ST	22.10		0.7301	7 23 22 35 51	34 5 51	89621	10	8	
V	3439	RAFALE	森 章	YOK31N	22.66		0.7360	7 23 22 27 57	33 57 57	89996	9	9	
IV	3818	PIETER SAARI	沼谷 裕正	BAL 35	25.64		0.7663	7 23 21 33 25	33 3 25	91194	8	10	
V	3501	SONN BLUME	戸田 宏一	YOK 31N	22.52		0.7345	7 23 23 11 0	34 41 0	91710	11	11	
V	3435	友架里	白鳥 芳一	BAN 30	23.13		0.7409	7 23 23 53 13	35 23 13	94385	12	12	
V	3203	VIVACE	福本 金生	YOK-31	22.34		0.7326	7 24 0 37 46	36 7 46	95286	13	13	
IV	3592	LAHAINA-III	佐藤 文昭	ESP-30	23.27		0.7423	7 24 2 7 25	37 37 25	100541	14	14	
IV	3846	SAKURA	藤田 雅巳	GARY MULL	21.29		0.7214				RET		
V	3857	MEG	竹内 保史	YR 30	22.35		0.7327				RET		
IV	3121	桃太郎	岡山 弘	NAK-34	24.40		0.7539				RET		

CRクラス 距離 150M

CLS	SAIL No.	艇名	オーナー	TYPE	R. m	ペナルティ %	T.A	到着 M D H M S	所要時間 H M S	修正時	到着 順位	総合 順位
C・R	2230	BYE-BYE	清川 恒	TAK-33	7.70		590	7 23 18 57 57	30 27 57	21177	3	1
C・R	3860	BLAZER	加藤 民夫	x-99	8.80		559	7 23 18 38 18	30 8 18	24648	1	2
C・R	3768	FRENCH KISS	山科 定則	X-402	9.40		545	7 23 18 55 48	30 25 48	27798	2	3
C・R	2437	RIPPER SHARK	岡田 雄二	DOU-33	7.40		599	7 23 21 15 21	32 45 21	28071	8	4
C・R	1115	STAYER	吉田 修	X-372	8.40		570	7 23 20 5 28	31 35 28	28228	6	5
C・R	3801	FAIRY STAR	市橋 繁之	Y-30S	6.90		617	7 23 22 7 22	33 37 22	28492	15	6

CLS	SAIL No.	艇名	オーナー	TYPE	R.m	バナルティ %	T.A	到着 M D H M S	所要時間 H M S	修正時	到着 順位	総合 順位
C・R	3828	AGNES IV 光(カリ)	石黒 徳衛	WAT-38	8.95		556	7 23 19 45 59	31 15 59	29159	5	7
C・R	2777	MIWA	砂田 信一	SW 391	9.25		548	7 23 19 26 39	30 56 39	29199	4	8
C・R	3810	しゅうがく坊	久保田 浩	VEN-30	6.50		631	7 23 22 55 30	34 25 30	29280	16	9
C・R	1579	小野 公夫	神保 一也	YOK-32	7.40		599	7 23 21 37 23	32 7 23	29393	11	10
C・R	3466	CHARISSA	高月 英五	BEN355	8.00		581	7 23 21 19 38	32 49 38	31028	9	11
C・R	2182	AZZURRA	高月 正彦	Y-33 II	7.65		592	7 23 21 49 54	33 19 54	31194	14	12
C・R	180	KELONIA	土肥 丈志	YOK 33	7.85		586	7 23 21 47 11	33 17 11	31931	13	13
C・R	2962	SERENE III	篠崎 文則	BNT-375	8.25		574	7 23 21 29 52	32 59 52	32692	10	14
C・R	3912	BONJULE V	猪狩 光清	FAR-34	8.30		573	7 23 21 39 11	33 9 11	33401	12	15
C・R	2927	HARIMAO	藤山 卓男	OSE430	9.70		538	7 23 20 18 1	31 48 1	33781	7	16
C・R	3043	MER AMI	林 政幸	YOK-32	7.45		598	7 23 22 58 36	34 28 36	34416	17	17
C・R	3640	CAPRICIOUS	松本 幸男	YOK 28	6.90		617	7 23 23 50 0	35 20 0	34650	24	18
C・R	3612	ANGLER III	大塚 克巳	ESP	7.05		611	7 23 23 36 27	35 6 27	34737	22	19
C・R	1044	TELEMATIQUE	高城 昌彦	YOK 28	6.80		620	7 24 0 18 7	35 48 7	35887	26	20
C・R	669	CORVATSC II	加藤 忠男	JN-34	7.60		593	7 23 23 12 57	34 42 57	36027	20	21
C・R	3889	MIZUNEZUMI	重松 良固	U-32	7.30		603	7 23 23 43 15	35 13 15	36345	23	22
C・R	3661	AGERIASU	小川 和好	Y-30ST	6.95		615	7 24 0 21 36	35 51 36	36846	27	23
C・R	2623	BLUE	古川 正雄	BEN-35	8.00		581	7 23 23 2 20	34 32 20	37190	18	24
C・R	3555	MU MISAKI	藤田 弘治	YOK-30	7.85		586	7 23 23 21 35	34 51 35	37595	21	25
C・R	3484	URANAMI	市川 勇	Y-35CR	8.15		577	7 23 23 7 40	34 37 40	38110	19	26
C・R	3913	HIBISCUS II	古川 章二	TAK-30C	7.15		608	7 24 0 29 42	35 59 42	38382	28	27
C・R	3673	ZIPCODE	酒井 学	TAK-29	6.70		624	7 24 1 16 3	36 46 3	38763	30	28
C・R	3545	NEW TOP CAT	桑原 孝雄	ARK-27	6.85		618	7 24 1 13 50	36 43 50	39530	29	29
C・R	2967	HOLIDAY	馬目 徳男	MA 34	8.10		578	7 23 23 54 35	35 24 35	40775	25	30
C・R	3590	VIGOROUS	岩沢 文男	YOK-29	6.80		620	7 24 1 57 5	37 27 5	41825	32	31
C・R	3898	AEOLUS	飛島 章	ESP	7.05		611	7 24 1 35 54	37 5 54	41904	31	32
C・R	3536	絵 宙 人	向井 豊	Y30C	6.95		615	7 24 2 21 42	37 51 42	44052	35	33
C・R	199	SALMON 3	飯島 征四郎	VAN 30	6.75		622	7 24 2 43 54	38 13 54	44334	36	34
C・R	3392	BOOMERANG	岡 宏行	ORY 33	7.45		598	7 24 2 17 18	37 47 18	46338	34	35
C・R	1771	潮路 III	池田 晴秋	ST-30	7.20		606	7 24 3 52 2	39 22 2	50822	38	36
C・R	2328	FREDERICA	土井 貴一郎	BEN 375	8.80		559	7 24 2 13 47	37 43 47	51977	33	37
C・R	2862	おおみずなぎどり	北村 宗彬	Y-33-1	7.40		599	7 24 3 59 44	39 29 44	52334	39	38
C・R	3713	さち風	岡安 幸子	U-34	7.65	5	592	7 24 3 46 26	39 16 26	55215	37	39
C・R	3725	雪風	平井 重治	Y 30CR	7.20		606	7 24 6 34 20	42 4 20	60560	40	40
C・R	3923	ボヘミアン	渡辺 起世	OKA-30	7.10		610	7 24 6 46 7	42 16 7	60667	41	41
C・R	3161	DAIRMA II	五島 徳雄	YAM-30C II	6.70		624	7 24 8 49 16	44 19 16	65956	42	42
C・R	2234	桃李 III (ト-リ)	佐々木 研一	FUJ-45	8.15		577	7 24 18 58 50	54 28 50	109580	43	43
C・R	3054	THIGHT LESS	岩崎 洋右	BNT 29	6.55		629			RET	RET	RET
C・R	3562	AMPHITRITE	大滝 義晴	YAM30C	6.90		596			RET	RET	RET
C・R	3740	TUPAMAROSS	片桐 健一	OP101	7.50		587			RET	RET	RET
C・R	3741	岳 洋	長島 定則	YOK 33	7.80		593			RET	RET	RET
C・R	3761	HISHOU II	安部 賛	U-33	7.60		618			RET	RET	RET
C・R	3834	AKI-I	高田 明彦	Dou-33	6.85		580			RET	RET	RET
C・R	3881	AMIRAALI	八木 宏	FST-345	8.05		527			DSQ	DSQ	DSQ
C・R	3910	CHANCE II	山本 和秀	BAL-43	10.20		678			RET	RET	RET
C・R				SOL-26	5.45							

JAPAN CUP OFFSHORE SERIES 1988

実施要項(7月25日現在)抜粋

実行委員長 小林義彦

1. はじめに

JAPAN CUP OFFSHORE SERIES 1988は、(社)日本外洋帆走協会(NORC)が関係諸団体の後援・協賛・協力のもとに、伊豆の熱海沖で開催する外洋ヨットの全日本選手権大会である。またこのレースは外国艇の参加を認めた国際ヨット・レースでもある。

このヨット・レースは、オフショア・レース(2レース)とトライアングル・コースによるインショア・レース(3レース)からなるシリーズ・レースで、得点合計により優勝艇ならびに優勝チームを決定する。なお、オフショア・レースは、オープンレースとし、本シリーズ参加艇以外の艇(IOR・JORレーティング)の参加を認め、本シリーズとは別の賞を設け、帆走指示書は別に定める。

主催…(社)日本外洋帆走協会(NORC)

後援…未定

協賛…株式会社ミキモト

飛鳥建設株式会社

ヤマハ発動機株式会社

日本タイマート株式会社

協力…静岡県、熱海市、熱海市観光協会、熱海商工会議所、熱海温泉旅館組合、大熱海漁業協同組合、伊豆小型船交通安全協議会、(株)朋友建設、他。

2. 日程

1988年10月 6日(休)0800~0900

インスペクション・ミーティング
(インスペクション申込受付)

0900~1700 インスペクション

10月 7日(金)0900~1700 インスペクション

1930~2030 艇長会議

(於: レース本部 会議室)

10月 8日(土)1000~ 第1レース(約20哩)

インショアレース

1800~ 歓迎パーティ

(於: クラブハウス“渚”)

10月 9日(日)1000~ 第2レース(約20哩)

インショアレース

10月10日(月)1000~ 第3レース(約120哩)

ショートオフショアレース

(オープンレース)

10月12日(水) 予備日

10月13日(木)1000~ 第4レース(約20哩)

インショアレース

1800~2030 親睦パーティ

(於: 熱海“金城館”)

10月14日(金)1000~

第5レース(約240哩)

ロングオフショアレース

(オープンレース)

10月22日(土)

表彰式

(於: 東京/時間、会場未定)

3. 適用規則

IYRR1985-88, NORC 外洋レース規則, IOR MK III 1988, ORC 特別規定1988, NORC 特別規定, NORC 設備規定, ならびに本シリーズの実施要項および帆走指示書による。(但し, IYRR, IOR MK III, ORC 特別規定については英文を正とする。)

4. 参加資格

- (1) IOR MK III もしくは IOR MK III A の有効なレーティングを所有し, ORC 特別規定1988 カテゴリー III 以上, NORC 特別規定, NORC 設備規定 カテゴリー B 以上の安全検査に合格しているレーティングが20.00ft 以上70.00ft 以下の艇とする。
- (2) オープンレースについては上記に加え, JOR レーティングも可とする。

5. クラス分類および競技の種類

- (1) クラス分類…参加艇の IOR レーティングに応じて、
 クラス I (33.00ft—70.00ft)
 クラス II (30.00ft—32.99ft)
 クラス III (26.00ft—29.99ft)
 クラス IV (23.00ft—25.99ft)
 クラス V (20.00ft—22.99ft)
 のようにクラスを分類する。

(2) 競技の種類

艇対抗競技…各レース毎の総合順位による得点を合計し、全レースの総合順位を決定する。

クラス別艇対抗競技…各レース毎のクラス別の順位による得点を合計し、全レースのクラス順位を決定する。

チーム対抗競技…チーム対抗レースに参加する1チーム3艇の各レース毎の得点を合計し、全レースの総合順位を決定する。

オープンレース…第3レースおよび第5レースで、オープン参加の艇を加え修正時間により、順位を決定する。

(但し、5艇以上の参加があった場合はオープン参加艇のみの賞をもうける。)

6. チームの構成(略)…チーム対抗競技; ナショナルチーム対抗競技; 予備艇に関する件

7. 順位の決定(時間修正システム)

TCF 方式を採用する。(以下略)

8. 得点および得点係数

(1) 得点…帆走指示書による。

(2) 得点係数(N)…本シリーズの5レースの得点係数は

つぎの通りとする。

第1,2,4レース:N=1.0/第3レース

:N=1.5/第5レース:N=2.0

- (3)最終得点が同点の場合、総合優勝艇はロングオフショアレースの成績が上位の艇とする。なお、ロングオフショアレースが不成立の場合は、ショートオフショアレースの成績をもってこれに代える。

9. ジュリー(略)

10. 本シリーズの成立(略)

11. 失格に代わる罰則(略)

12. 上告(略)

13. 参加申し込み

- (1)事前登録および登録方法…参加艇数の確認およびプログラムの参加艇紹介などのため、次の期日までに事前登録をすること。

①締切日…1988年7月29日(金)17:00(6月号既報)

②事前登録費…10,000円

③所定の書類に記入の上、プログラムに掲載する艇の写真、プロフィールを添えて提出すること。

- (2)最終登録および登録方法…この登録をもって最終とする。但し、参加艇が50艇を越えたときは、事前登録を済ました艇、外国からの参加申込艇を優先とし、参加申し込みを受理しないこともある。

①締切日…1988年9月30日(金)17:00

②参加費用…クラスⅠ 70,000円(パーティ9名分含)

クラスⅡ 60,000円(同上8名分含)

クラスⅢ 50,000円(同上6名分含)

クラスⅣ 40,000円(同上6名分含)

クラスⅤ 30,000円(同上5名分含)

オープンレース艇 10,000円(各レースにつき)

但し、事前登録を済ませている艇は、10,000円引いた金額とする。

- ③提出書類…所定の参加申込書、レーティング証書のコピー(含、インベントリー・リスト)、安全検査合格証のコピー、乗員登録リストおよび1988年度のNORC会員証のコピー、チーム編成表

やむ得ず締切日までに有効なレーティング証書(インベントリー・リスト)、安全検査合格証をもたない艇については、1988年10月5日(木)17:00までにこれらのコピーを提出すること。

- ④申し込み先…(株)日本外洋帆走協会

東京都港区虎ノ門1-15-16 船舶振興ビル4F

☎03-504-1911

14. 乗員登録

- (1)参加艇はシリーズ期間中に乗艇する全乗員の登録を行うものとし、乗員は2艇以上への重複登録は認められない。
- (2)シリーズ開始後の乗員登録リストの変更は追加のみとする。

- (3)乗員登録の際、1988年度のNORC会員証のコピーが提出されない場合は、シリーズ期間中は非会員扱いとする。

- (4)乗員登録は所定の乗員登録リストで行う。

15. 帆走指示書・公式掲示板

- (1)帆走指示書は1988年9月16日(金)に郵送する。

- (2)艇長会議以降の実施要項および帆走指示書に関する変更・追加等は、レース委員長のサインのある書面にして、公式掲示板にて発表する。
- 公式掲示板の設置場所は10月6日(木)08:00からのインスペクション・ミーティングの時発表する。

16. インスペクション

- (1)全ての参加艇は事前にチェックリストを提出し、インスペクションを決められた日時に受けなければならない。

- (2)IOR MKⅢ(1988)、ORC 特別規定(1988)、本シリーズ特別規定、NORC 特別規定及び設備規定(外国艇は除く)に適合しない艇は、レース委員会が全ての条件に適合したと判断するまで出艇申告を受理しない。

- (3)オープンレースのみ参加を希望する艇については、特にインスペクションは行わない。

17. 係泊地

全ての参加艇は本シリーズの期間中、熱海港の指定泊地に係泊しなければならない。天候の悪化等により指定泊地への帰港および係泊が不可能になったときは、レース委員会に報告し、承諾を受けること。なお当泊地における事故、災害については(株)日本外洋帆走協会は一切の責任を負わないので、各艇の責任にて管理すること。

なお熱海泊地には1988年9月24日(土)~10月23日(日)の期間係泊することができる。上記期間以外の係泊を希望する艇は、事前にNORC事務局へ申告すること。

18. 本シリーズ特別規則

- (1)セールに対するインスペクション…本シリーズで使用するIORスタンプを必要とするセールは、IORセールメジャラーによる事前のインスペクションを受け、レース委員会指定のスタンプを押したセールとし、熱海でのインスペクションの際にはスタンプの確認をするにとどめる。セールのインスペクションの期間、場所は次の通りとする。
- 期間:1988年9月1日(木)~9月30日(金)

場所:セールメジャラーの指定する場所

- (2)インスペクション後、最終レース終了までは艇の上架を禁止する。但し、緊急の修理もしくはインスペクションのためなど、やむを得ないものについては事前に、書面でレース委員会の承認を得ること。

- (3)チーム・レース戦術の使用を禁止する。(IYRR付則4は適用しない)

- (4)全ての参加艇は、各レースのスタート前に100マ

イル以上機走できる燃料を積載しておかなければならない。

- (5) バラストの増減、移動…本シリーズ中は、IYRR22.2に優先してIOR109.4を適用する。
(6) 衣類および装備…IYRR61.1(b)については本シリーズ中適用されない。

19. 艇長会議・出艇申告

- (1) 艇長会議は次の1回のみとし、本シリーズ全レースの共通事項を連絡する。
日時：1988年10月7日(金)19:30～20:30
場所：レース本部 会議室“渚”2F
オープンレース参加艇については別途指示を行う。
(2) 出艇申告は所定の出艇申告書に記入し、各レース毎に提出しなければならない。
提出書類：所定の出艇申告用紙
場所：レース本部“渚”2F
日時：各レースの前日15:00～17:00、当日07:30～08:00

20. パーティ

- (1) 歓迎パーティ…1988年10月8日(土)18:00～
クラブハウス渚
(2) 懇親パーティ…1988年10月13日(休)18:00～20:30
熱海 金城館
参加費用に含まれた人数以上のパーティ代は当日受け付けます。
3,000円/1人
(3) クラブハウス渚…1988年10月6日(木)、飲食無料
(4) その他のパーティ…ミドルボートクラブ主催
クラブハウス渚、日時未定

21. 賞および表彰式

賞(略)

表彰式…日時：1988年10月22日(土) 於東京、

(時間、会場未定)

22. レース本部およびその所在(略)

23. 実施要項および帆走指示書

レース委員会は、実施要項および帆走指示書を修正することが出来る。

24. その他

1988年ハーフトン・カップ、スリークォータートン・カップは、本シリーズの成績を準用して決定される。

25. 本シリーズ組織図(略)

26. 実行委員会

実行委員会/委員長…小林義彦、副委員長…柴田邦敏・宮坂敬三

ジュリー/委員長…石井正行

総務/委員長…清水栄太郎、副委員長…朝河清・関恭一郎・坂西正明

熱海運営/委員長…稲葉文則、副委員長…椎野政一

広報/委員長…浅野英武、副委員長…藤沢武司

レース委員会/委員長…並木茂士、副委員長…朝河清・小沢美弘・小田良司、アドバイザー…原均・猪上忠彦

インスペクション/委員長…渡辺修治、副委員長…林腎之輔・長江博人

会計/委員長…児玉萬平、副委員長…関恭一郎

総アシスタント/NORC事務局…矢島滋、小山一典

27. 問い合わせ先

(社)日本外洋帆走協会

東京都港区虎ノ門1-15-16船舶振興ビル4F

Tel 03-504-1911

第10回ミニトン全日本選手権大会

実施要項

下記の予定で今年度のミニトン全日本選手権大会を開催しますので、全国のスモールボートの皆さん、ふるって参加して下さい。特に今大会は第10回記念大会としてクルーザークラスを強化拡大したいと考えております。

チャーター艇も数艇用意し、皆様の参加をお待ちしております。

1. 主催 日本ミニトン協会
2. 主管 (社)日本外洋帆走協会 近畿北陸支部
日本ミニトン協会関西支部
後援 レークウエストヨットクラブ
協力 ヤマハ発動機 KK 大阪マリン企画室
ビワコスモールヨットクラブ

3. 適用規則 本大会は、NORC 外洋レース規則(但し第4条は除外し、本実施要項の9を適用する)および大会帆走指示書を適用する。

4. レースの日程

10月2日(日)～7日(金) 艇の搬入 但し4日(火)は定休

10月7日(金)1300～1600 インスペクション

1600～1700 最終申告(レース本部)

1700～1740 艇長会議(会議室)

1800～2000 オープニング・パーティ

10月8日(土)0800～ 出艇申告(レース本部)

0930～ 第1レース オリンピックコース

1300 第2レース

ショートディスタンスコース約15M

1800～2000 ウェルカム・パーティ

(L.W.Y.C. ガーデン)

- 9 日(日)0800～ 第3レース
ロングディスタンスコース約30M
- 10 日(祭)0930～ 第4レース オリンピックコース
1230 第5レース オリンピックコース
1700～ 表彰式(クラブハウス)

5. 参加資格(一部略)

NORCの登録艇もしくは会友艇で、艇長は会員か会友であること。また、艇長は日本ミニトン協会の会員であること。レーサークラス…IOR もしくはJOR17.4ft以下の有効なレーティングを有すること。ORC安全カテゴリー4、およびNORC設備規定C以上の安全検査に合格していること。

クルーザークラス…全長23ft以下のプロダクション艇でクルーザーレーティング17.4ft以下の有効なレーティングを有すること。船舶安全法に基づく検査済のこと。

5. 乗員及びエントリー人数に協する制限

エントリー人数(艇長含む)は6名以内、乗員数は3名。

6. セール枚数に関する制限

次の枚数を超えて搭載してはならない。

メインセール…1, シブセール…3+1(1.3J未満),
ネビンネーカー…2

7. 開催場所…レックウエストヨットクラブ(ハーバー

マスター：石塚俊次、大阪市今堅田1丁目2-20

☎0775-72-2114)をホームポートとする琵琶湖

8. 参加申込…〒550 大阪市西区北堀江3-6-13

☎06-535-1671

ヤマハ発動機(株)大阪マリン企画室内

全日本ミニトン選手権実行委員会事務局 松田宛

締切日…昭和63年10月2日(日)

参加料…1艇につき30,000円

9. 得点方法…略

10. 賞 レーサークラス優勝…MINITON CUP, 石原慎太郎杯, TOYOTA CUP

レーサークラス2～3位…トロフィー

ク プロダクションクラブ艇…トロフィー

クルーザークラス優勝…優勝杯, ヤマハCUP

ク 2～3位…トロフィー

11. 艇の搬入・保管…事前にハーバースターに連絡、了解を得ること(火曜日定休)

12. 問い合わせ先

全日本ミニトン選手権大会実行委員会

松田 ☎ 06-535-1671

レックウエストヨットクラブ 石塚 ☎ 0775-72-2114

日本ミニトン協会関西支部 伊藤 ☎ 0798-74-7735

ビワコスモールヨットクラブ 入江 ☎ 0726-71-4817

KENWOOD CUP成績

通算成績(通算ポイント総合順位)

順位	艇名	通算ポイント
1	BRAVURA (米)	525
2	JUBILATION (米)	495
3	GREAT NEWS (豪)	490
4	WINDWORD PASSAGE II (豪)	482
5	INSATIABLE (米)	449
6	RONSTAN ULTIMATE CHALLENGE (豪)	422
7	JUNO (英)	415
8	THE ESANDA WAY (豪)	406
9	SAGACIOUS V (豪)	399
10	INDULGENCE VI (英)	385

日本艇の成績：海太郎Ⅳ…11位(384), TOGOX…12位(376), VICTORIA…14位(348), カラス…22位(278), MATENROW…23位(275), 美美…27位(228), 美帆…28位(225), SLEEPER…32位(191), NINJA…33位(185), 青海波…34位(173), 摩利支天…35位(156), RENOMA…40位(122)

アラウンド・ザ・ステーツ成績表(修正総合順位)

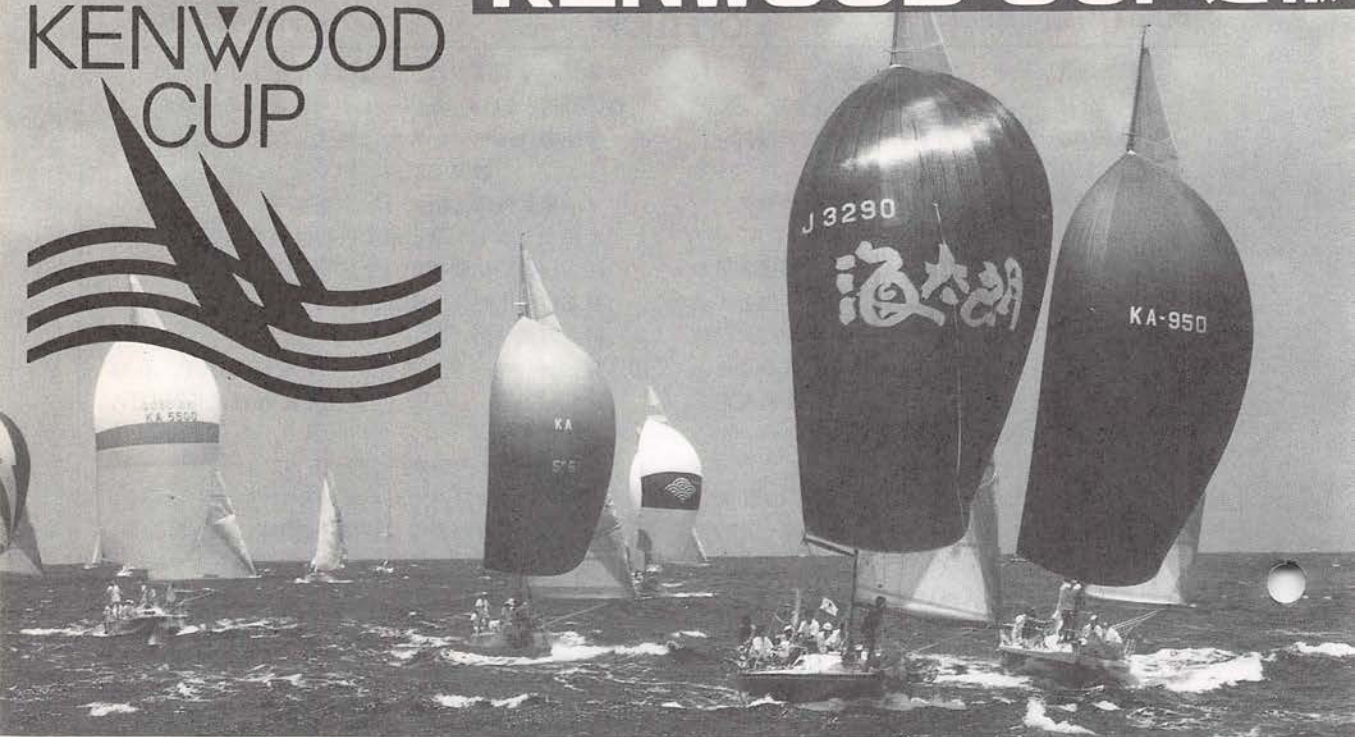
8/7(日)ハワイ州(775マイル) 現地時間9:00スタート 36杯出艇

順位	艇名	修正時間
1	INSATIABLE (米)	3 ^d 21 ^h 07 ^m 57 ^s
2	BRAVURA (米)	3 ^d 23 ^h 33 ^m 45 ^s
3	海太郎Ⅳ (日)	3 ^d 23 ^h 51 ^m 11 ^s
4	GREAT NEWS (豪)	4 ^d 1 ^h 21 ^m 40 ^s
5	INDULGENCE VI (英)	4 ^d 1 ^h 38 ^m 51 ^s
6	WINDWORD PASSAGE II (豪)	4 ^d 1 ^h 41 ^m 21 ^s
7	JUBILATION (米)	4 ^d 2 ^h 34 ^m 15 ^s
8	THE ESANDA WAY (豪)	4 ^d 3 ^h 23 ^m 56 ^s
9	ONCE A JOLLY SWAGMAN (豪)	4 ^d 3 ^h 44 ^m 36 ^s
10	RONSTAN ULTIMATE CHALLENGE (豪)	4 ^d 3 ^h 46 ^m 59 ^s

日本艇の成績：TOGO X…12位, カラス…13位, MATENROW…16位, 美帆…21位, 美美…23位, NINJA…25位, 青海波…26位, SLEEPER…27位, VICTORIA…28位, RENOMA…29位, 摩利支天…RET

'88 KENWOOD CUP

KENWOOD CUP速報



写真提供：佐藤伝次郎
岩代孝之

《海太朗Ⅳ》アラウンドザステーツレースでは堂々クラスE 2位・総合3位，総合通算11位

↓ 〈TOGOX〉クラスD 3位，総合12位



1972年にワイキキ沖で始まり，1986年の前回からKENWOOD CUP となった，国際外洋ヨットレース。

88年は日本のエリート代表12艇を始め，8カ国から43艇が参加，ロイヤル・ハワイアンオーシャンレーシング・クラブのもと，27マイルのトライアングルレースを3回と，150マイルのモロカイ外洋レース，775マイルのハードなアラウンド・ザ・ステーツ・レースの計5レースのシリーズ。

7月29日，10艇のマキシ・トライアングルレース。80フィート，200万ドルの超大型艇が，NE 15 mの貿易風と4 mのうねりのなか，激しい前哨戦を展開した。WINDWARD PASSAGE II（豪）がCT2h.46m.34s.で1位，IL MORO DI VENEZIA（イタリア），SOVEREIGN（豪）と続いた。

7月30日，トライアングル第1戦。NE 8 mのワイキキ沖での開幕，8カ国43艇。わが“TOGOX”は前半をトップでリードと大健闘，WINDWARD PASSAGE IIを10位に押さえて堂々の4位でDクラス2位。1位はワントン艇EクラスのBRAVUBA（米），わが“VICTORIA”は12位，Eクラス4位と好調の滑りだした。

7月31日，トライアングル第2戦。NE 10 mの絶好の条件のもと，前日のレースで手のうちを知ったとあって，激しいベストポジション争い，フライング艇の続出，数回のリコール，進路妨害の抗議，とエキサイトな白熱戦となった。善戦の海太朗Ⅳが9位，1位はBRAVURAが連取。

8月1日，ダイヤモンド・ヘッド〜モロカイ島往復150マイルのオーバーナイト・レース，わが12艇を含

む41艇。18:00、NE 6 m の穏やかな海面をリコールなしのスタート。ベストレコードは、'86年 SORCERY の16h.22m.12s. である。

スタート直後から WINDWARD PASSAGE II が全レース艇群をリード、02:22にハエナ岬のブイを1位で回航、続いて15分おくれで SORCERY。熱帯低気圧の影響で風は3 m 以下に落ち、全艇ペースダウン。Cクラスの JUBILATION (米) が17h.17m.47s. で1位、わが海太朗IVが12位Eクラス5位と健闘した。

8月3日、レースは休日、熱帯低気圧 Gilma とハリケーン Fabio の影響で雨のなか、本部のあるワイキキ・ヨットクラブでのパーティは700人の大盛況。

8月4日、トライアングル第3戦。NE8~9 m、絶好の観戦日和で41艇がスタート、われらがDクラスの SLEEPER と美美、Eクラスの MATENROW は入れ込んで再スタート。BRAVURA (米) が3連勝、"TOGOX" が5位Dクラス2位、VICTORIA が6位Eクラス2位に続いた。3レース目まで、215点・総合9位と健闘した海太朗はマストトラブルで惜しくもDNFとなった。

8月7日、シリーズ掉尾を飾るアラウンド・ザ・ステーツ・レース。34艇が18ノットNEの貿易風をうけてスタート。摩利支天はスタート直後ディスマストし、リタイア。翌8日風は5ノットに落ち、6時には全艇ニイハウ島北西沖前後15浬の範囲に団子状態となった。小型艇有利の展開だ。この時点では修正タイムでBRAVURA 1位、海太朗2位、VICTORIA 4位、カラス7位、MATENROW 8位とクラスEの艇がトップ8位までを占めた。

ハワイ島のカラエ岬(コースの最南端)を9日1時20分、最初に通過したのは、やはり"WINDWARD PASSAGE II"。その後もトップを独走、11日10時50分(所要時間4日1h.50m.46s.)ファーストホームした。着順2位の SOVEREIGN に6h.40m.の大差をつけた。例年になく弱風のコンディションとしては好タイム。続いて CONGRE, MATADOR, SORCERY, RAGAMUFFIN, WINTERHAWK の順で、日本艇 RENOMA (旧カトマンドウ) は着順8位でフィニッシュした。(これまでのベストレコードは、'84年 BOOMERAMG の4日50m.46s.)

総合成績ではクラスD・Eの艇が上位を占め、修正1位 INSANTIABLE, 2位 BRAVURA, につぎわが"海太朗"がEクラス2位・総合3位の栄冠をかちとった。INSANTIABLE の艇速はすばらしく、2位 BRAVURA を修正で2時間半もひきはなした。

海太朗IVの総合通算成績は384 p.・11位、クラスE 6位となったが、第4レースのリタイアがなければと惜まれる。突貫工事で予備マストに替え、最終レースに全てを賭け、モロカイ沖では微風の中重量軽減のため余分の水・食料を投げ捨てたというガッツ、十二分のチューンナップ・長距離レースのデータ研究もあり、世界の強豪を相手に互角に闘ったと言えよう。

TOGOX はこのレースで、クラスD 3位・総合12



(VICTORIA) (旧 MAGIC) クラスE 7位, 総合14位

位、通算成績276 p.・12位であった。「艇速は良いものの、やはりこー一番といった勝負どころのかけひきやコースの取り方が問題だった。クラス優勝を狙っていたのだが……」と山田東吾オーナー。

第4レースまで、280 p. 総合順位10位をキープしていた VICTORIA は、ハワイ島近くで微風につかまり、このレース28位となり、通算成績348p. クラスE 7位・総合14位となった。なお、ナショナルチーム対抗レースは、オーストラリア RED チームが"SAGACIOUS V"の最終レースリタイアにもかかわらず、1位の栄冠をかちとった。(成績表はP17参照)

ナショナルチーム対抗通算成績

1位オーストラリア RED (GREAT NEWS; SAGACIOUS V; THE ESANDA WAY) 686p; 2位アメリカ RED (BRAVURA; CHAMPOSA V; INSATIABLE) 681p; 3位イギリス (JUNO; INDULGENCE VI; YEOMAN X X VII) 512p; 4位オーストラリア WHITE (ONCE A JOLLY SWAGMAN; RONSTAN ULTIMATE CHALLENGE; SOVEREIGN) 500p; 5位日本 BLUE (海太朗IV; SLEEPER; TOGO X) 450p; 6位アメリカ WHITE (GENERAL HOSPITAL; JUBILATION; QUINTESSANCE) 377p; 7位オーストラリア BLUE (RAGAMUFFIN; VANGUARD; VENTURE I) 373p; 8位日本 RED (カラス; MATENROW; 青海波) 331p

(MATENROW) クラスE 11位, 総合23位





3800
ヘカス
クラスE 12位、総合22位



↑ 〈美美〉クラスD 4位、総合27位



〈美帆〉
クラスE 13位、総合28位



〈RENOMA〉クラスB 2位、総合40位



〈青海波〉
クラスE 14位、総合34位



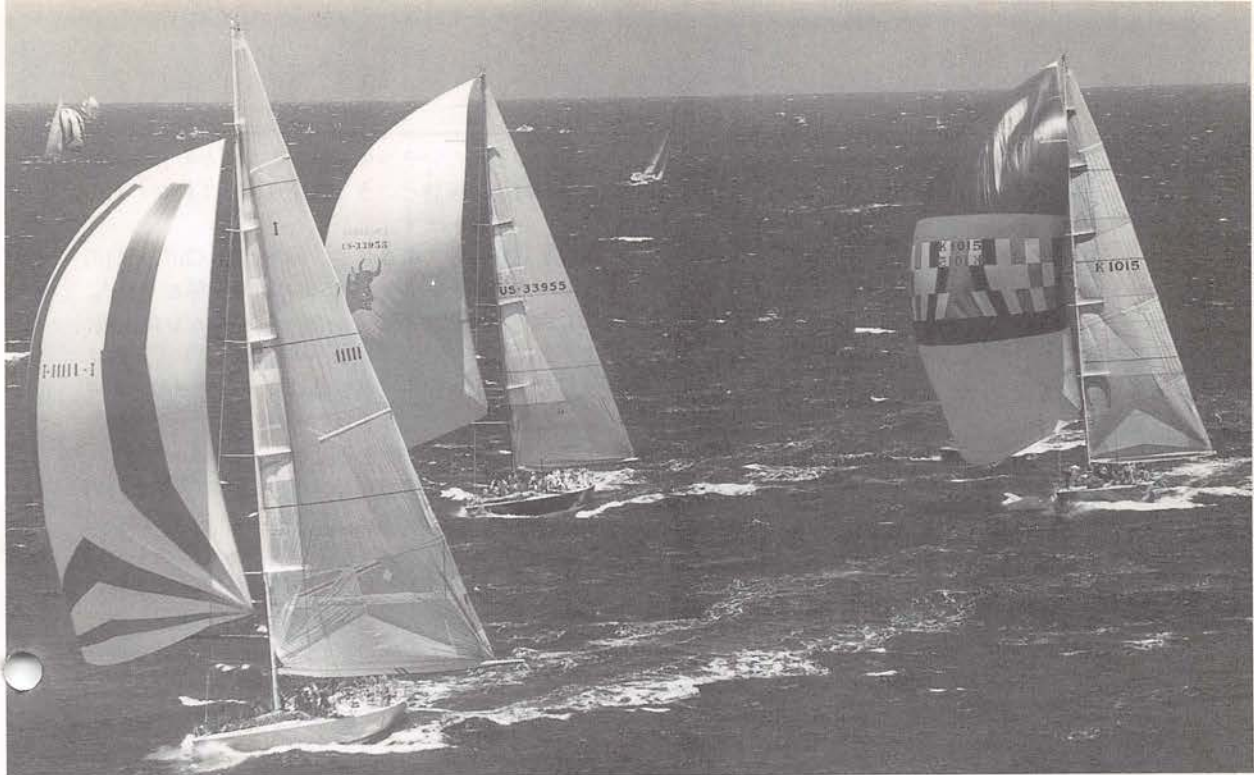
〈SLEEPER〉クラスD 7位、総合32位
提供：ヨットینگ



〈摩利支天〉
クラスB 3位、総合35位



〈NINJA〉クラスD 8位、総合33位
提供：ヨットینگ



↓ 〈JUBILATION〉 通算クラスC 1位・総合2位

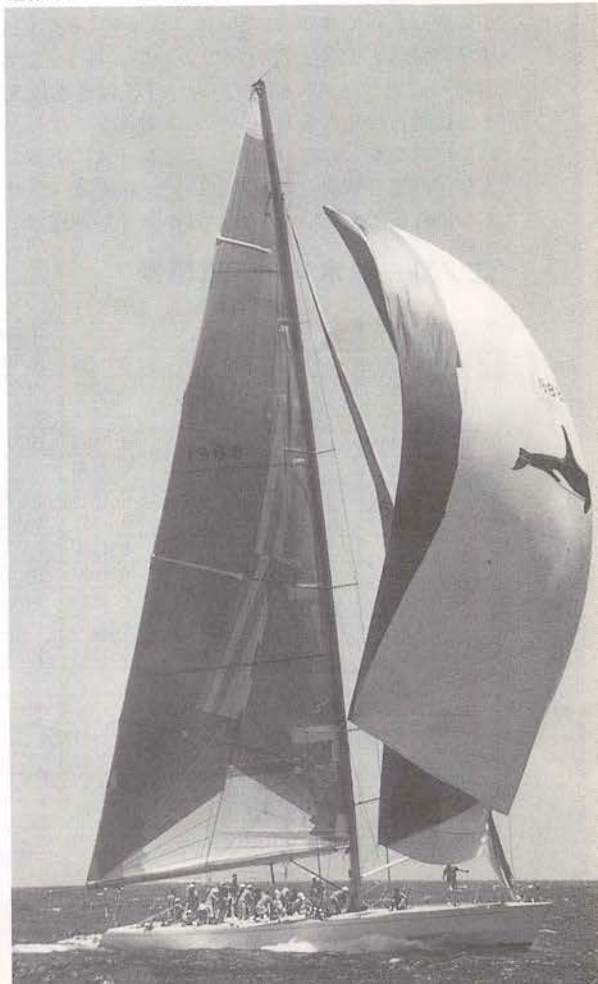
Aクラスマキシボートの競い合い

〈ILMORO DI VENEZIA〉 1111-1, 〈MATADOR〉 33955, 〈ONDINE VII〉 1015



ハイクを駆使したマキシ艇 〈WIND WORD PASSAGE II〉
通算クラスA 1位・総合4位 提供：ヨットینگ

↓ 〈BURAVURA〉 18975と〈SAGACIOUS V〉 4000



オジサン達も優勝しますよ

小網代フリート〈一乗Ⅲ〉

青山恒男



3年前までは泊地の関係から、私共オールドセーラーにとって自分達の船で、なおかつ大きい船でオシャンレースにでることは実現不可能な夢物語でした。油壺、諸磯、小網代の三湾にとってなが年の願望でした。ヨットの大型化問題を石原会長はじめ、NORCの幹部の方々、油壺フリートの皆様の御尽力により解決して戴き、我が小網代フリートも遅ればせながら3年前に許可されました。さっそく横山31Nを購入し、レース艇の皆様に迷惑がかからないように、毎週末練習に励みました。なにしろ10数年いだった夢が実現したのですから。86'はフリート対抗に始まり、江ノ島清水、鳥羽、ジャパカップ、神子元、87'は前年と同じレースに顔をだし、STCは進水以来現在まで皆勤、今年も5月のフリート対抗をこなし、目一杯レースを楽しんでいます。またレースに出ることが大型化問題を解決していただいた、諸先輩へのせめてもの御礼と思っていました。はからずも神様はこんな

〈一乗〉の姿にたいそうに同情され、天から三保の松原に舞い降り、優勝という二文字を置いてゆかれたのではないかと想います。

乗員を紹介させて戴きます。鈴木道雄（20数年前の大島レースで〈バレリーナ〉に乗り世間を騒がせた人、49才）大村英隆（A級ディンギーでインカレに出場、48才）青山恒昌（元〈バレリーナ〉と〈シレナ〉のクルー、47才）山本紀臣（若ければ12メートルのクルーになった男、39才）の4名は〈一乗〉のオーナーで、鈴木駿一郎（通称マンモさん、元フリートキャプテン、45才）尾山純一（福をもたらす唯一の若者？28才）の二名は〈鎌倉〉のオーナー、平均年齢43才、一鎌倉のいつものレギュラーメンバーでスタートをしました。

レースは、風向200°-280°、風速5M-13Mの条件のもとで展開されました。我が艇は爪木崎を上マークときめ、ラムライン上を風の振れに合わせタックを繰り返す、風速の変化と共にジブを交換し、リーフをし、いつもの通り風上デッキでブラサガリ、淡々と走りまわりました。

波勝崎で夜明け、風が幾分後ろに振れ、スピニングアップ、かすかに三保の松原が見える。先行艇が止まって見える。フィニッシュラインから1マイル手前でならば、そこから1時間かかって潮にのった順番でフィニッシュしました。勝因は川奈の無風帯を避けて風のあるかなり沖をはしれたこと。三保の松原で風がなかったこと。全員が無欲で、力を出しきったこと。2カラットのハイテクな道具が良かったことだともいえます。

最後になりましたが、係留の際にはアンカー打ちをお願いしたり、アフターパーティで大変なおもてなしをいただき清水フリートの皆様、誠にありがとうございました。

江ノ島—清水レース成績表

江ノ島—清水レース成績表				H M S								クラス	総合
START		7月9日		12 0 0		43200						順位	順位
着順	Sail-N	艇名	TCF	石廊崎回航時	日	到着時刻	SECOND	CT	クラス	順位	順位	順位	順位
3	3355	雪風	0.8088	10/00:30:00	10	6 8 49	65329	52838	2	1	2		
1	2455	MARGE	0.8283	9/23:30:00	10	5 58 28	64708	53598	2	2	4		
2	3224	LUCKY LADY	0.8568	10/00:00:00	10	5 59 41	64781	55504	1	3	9		
6	3922	ANI	0.7909	10/00:50:00	10	7 54 45	71685	56696	3	4	10		
4	3130	一寸法師	0.7536	10/00:50:00	10	7 52 26	71546	53917	4	1	5		
5	1909	DANDE LION	0.7870	10/01:35:00	10	7 53 23	71603	54920	4	2	7		
12	2182	KELONIA	0.7511	10/03:50:00	10	10 13 46	80026	60108	4	3	12		
7	1155	一乗3	0.7330	10/01:45:00	10	8 0 22	72022	52792	5	1	1		
10	3015	MANBOW 5	0.6907	10/01:40:00	10	9 17 1	76621	52922	6	2	3		
8	3414	OTSHOSAN	0.7383	10/01:15:00	10	8 23 42	73422	54207	5	3	6		
9	2677	GREAT PEOPLE	0.7362	10/02:00:00	10	8 55 15	75315	55447	5	4	8		
11	3501	SONN BLUME	0.7346	10/03:00:00	10	10 11 6	79866	58670	5	5	11		
13													
14													
15	2212	衣笠	0.7459			DNC							
16	3161	DHARMA 2	0.7946			DNC							
17	3670	再見	0.7347			DNC							
18	2434	乙天馬	0.7266			RET							
19	3510	TRACER	0.7301			RET							

【第1回 YAMAHA青函カップヨットレース】 (NORCクルーザーレーティングの計測と運用を通して) 津軽海峡支部 八木沢充

「…5, 4, 3, 2, 1. “P旗” “大会旗” 降下, 短音一声, ボーオッ」

7月23日14:00函館市立待岬沖合から54マイル離れた青森市を目指して26艇が一斉にスタートした。天候晴れ, 東の風11 m/s, 波の高さ1~2m, 津軽海峡の西流を乗り越え24日の早朝にはフィニッシュするだろう。

このレースにクルーザーレーティングを採用する事が決定され, NORC関東支部本部計測委員会クルーザーレーティング部会の石井竹彦氏のご指導を受けて, 函館・青森・むつ・八戸の各フリートで各艇の協力を得ながら艇長会議の当日まで計測が実施された。

強い東風のなか揺れる艇をあやしながら, また, 暗くなってから懐中電灯をともしながら, 海に身体を落しそうになりながら…怪しい数値は再計測をしたり…。

レースは大方の予想に反しかなりの早いペースになり, ファーストホーム艇は23d23:17:17にフィニッシュしてきた。フィニッシュリミットの灯火を確認するのに混乱があったが, 24d01:54:02無事レースを終了することができた。レース中に指名した艇からの風速を参考にタイムテーブルⅢを使用することが決定され順位が決められた。しかし, 抗議が出されレース委員会の裁定に従い3~5%のペナルティを与え最終結

果が得られた。

クルーザーレーティングは簡単な用具でしかも短時間に計測ができ, 艇の個性が出てくるという点良かった。IORレーティングにこだわる艇もいたが, 皆で計測し, 楽しむことができ成功に終わった。

最後になりましたが, 石井氏はじめ, 各艇のオーナー, クルーの皆様のご理解とご協力に感謝いたします。

成績

1位〈アルバトロス〉(八戸)19着; 2位〈臥牛〉17着; 3位〈KEIKO〉16着; 4位〈ネプチューンⅠ〉22着; 5位〈マリオネット〉13着; 6位〈GAROPER〉1着; 7位〈NYX-3〉4着; 8位〈アルバトロス〉14着; 9位〈リップル〉24着; 10位〈SNOTTY〉7着; 11位〈ちゃんびおん〉6着; 12位〈M・K〉23着; 13位〈WEED〉15着; 14位〈サンクス〉11着; 15位〈銀河・海・太陽〉9着; 16位〈SINDOBADⅢ〉3着; 17位〈月光Ⅱ〉18着; 18位〈BIG BOY〉5着; 19位〈ペガサス〉8着; 20位〈サムライⅤ〉12着; 21位〈マサシ〉25着; 22位〈GENGOROⅡ〉10着; 23位〈勲進丸〉21着; 24位〈姫神エキスプレス〉2着; 25位〈FISCHERⅡ〉26着; 26位〈けんよし〉20着

1988年 NORC 近畿北陸支部レース 夏季シリーズポイントレース

sail NO.	艇 名	艇 種	T.C.F	第1レース 順 位	第2レース 順 位	第3レース 順 位	第4レース 順 位	合計点	総 合 順 位
3506	TWIN CAM	KAN-23	6674	2	1	2	6	35.25	1
3324	CREEK	KAN-23	6696	6	2	5	4	29	2
3829	RIKI	J-29	7385	4	3	7	3	29	2
3808	NOSIDE	FAR-30	7280	—	—	1	1	24.5	4
3724	ESPERANZA	YOK 1/8	6656	1	6	8	7	24.25	5
3370	MIX MAX	KAN-23	6677	3	5	9	5	24	6
3846	SAKURA	MULL-30	7193	—	—	4	2	20	7
3361	IMP	YAM-21S	6650	—	—	6	9	11	8
3752	CREEKMAGIC	TAK-1/8	6662	5	4	—	—	11	8
1195	FRONT RUNNER	X 3/4	7553	—	—	3	DSQ	10	10
3735	ELAN VITAL	YAM-21S	6650	—	—	11	8	7	11
350	MARIE	YAM-21C	6637	DNF	DNF	10	PMS	6	12
3543	Miss TAKO	YAM-21RC	6625	—	—	12	10	4	13
3652	KATANA	KAN-23	6658	RET	7	—	—	4	13
562	Hiwind NU	YAM-21RC	6625	DNF	RET	—	—	2	15

(1回戦) 6月12日 スタート 11:00 風向 35° 風力 4 m/s
 (2回戦) 6月12日 スタート 14:00 風向 50° 風力 3 m/s
 (3回戦) 7月10日 スタート 11:05 風向 215° 風力 7~8 m/s
 (4回戦) 7月10日 スタート 13:21 風向 195° 風力 8~10 m/s

帆走委員長: 草野仁郎
 同 上
 帆走委員長: 真田恒夫
 同 上



NORC協会ニュース

社団法人 日本外洋帆走協会

第106回理事会議事録

1. 日時 昭和63年 7月16日(土)14:00~17:00

2. 場所 東京都千代田区霞が関3-2-4
霞山ビル 9F 霞山会館会議室

3. 出席者

理事 30名中出席15名 委任状10名

(出席)大儀見薫, 清水栄太郎, 久保和男, 並木茂士,
朝河 清, 石井正行, 児玉萬平, 鈴木康之, 林賢之輔,
宮坂敬三, 渡辺修治, 都築勝利, 松本 哲, 岩田行史,
末松 明(委任状)秋田博正, 今岡又彦, 山崎達光, 柴田邦敏,
峰田昌矩, 川端治夫, 矢野敏邦, 三井祥功, 秋山福夫,
東江正喜

理事以外出席 1名

平野喜美夫 (泊地対策委員長)

4. 議題

(1)スポンサー対応の基本的考え方

(2)支部・委員会報告

(3)その他

5. 議事

14:00, 大儀見副会長・会長代行の司会により開会,
久保常務理事から, 出席理事25名で全理事の過半数で
ある旨の報告があり, 本理事会の成立を確認, 大儀見
副会長・会長代行が議長となり, 議事録署名人に児玉,
鈴木両理事を指名し議事に入った。

大儀見議長から, 審議の都合上, 議題(2) (1) (3)の順
序で審議したい旨の提案があり了承された。

議題(2)支部・委員会報告について

(1)清水専務理事から次の各レースについて承認案件の
提案があった。

①メルボルン・大阪ダブルハンドヨットレース

大阪市から, 6月1日付でレース主催の依頼があっ
たことに基づき松本理事から, 1991年の開催を, 大阪
市は決定している。カンムリレースとなるが, スポン
サーは未決定である。との説明があり承認された。

②平和の白い帆 日本海レース

朝河, 宮坂両理事から資料に基づき概略次の説明が
あった。

本年 7月 8日~15日の間ナホトカ市及びハバロフス
ク市において北海道テレビ (HTB) 木原報道制作局
長及び朝河, 宮坂両理事等 4名とソ連沿海州スポーツ
委員会委員長等 4名との来年に予定されている当レース
の事前会議が行われ朝河, 宮坂両理事はナホトカの
会議に出席, 概略次のことが合意された。

○レースは1989年 8月に実施する。

○レース運営の最高議決機関として日ソ合同組織委員
会を設置する。委員は, 日ソ各 4名とし, 日本側は

五十嵐 HTB 専務, 秋庭朝日新聞北海道支社長, 清
水 NORC 専務理事, 神島室蘭実行委員代表, ソ連
側はイワノフ, ウラジスラフ, アレクサンドルピッ
チ, ソビエツカヤロシヤ誌副編集長以下 4名である。

○実施要綱は,

・主催 日ソ共同主催

・コース及び日程 1989年 8月

第1レース 30マイル ナホトカ沖

第2レース 500マイル ナホトカー室蘭

第3レース 30マイル 室蘭沖

・参加資格

組織委員会の承認を得た IOR (もしくは, これ
に準ずるもの) 又はスキャディキャップのレーティ
ングを有する 8米以上の艇で, ORC カテゴリー II
の安全検査に合格している艇。

・適用規則

IYRR, ORC, IOR マーク III・III A, スキャンディ
キャップルール, 実施要綱, 帆走指示書

以上の報告, 説明があり, 本レースの実施について
承認をいただきたい, との提案があり, 各理事から質
疑提案があった。これらを総括して大儀見議長からイ
ベント全体の運営とレースの運営とを分けて二本立て
とする従来の NORC の大型レース企画の基本対応に
準じて, この両者を区別することとし, かつ, そのた
めレース運営を主体とする実行委員会を NORC サイ
ドで設定し, この委員会は, 清水専務を委員長とし,
朝河, 宮坂両理事が委員として参加すること。さらに,
HTB から主催協力の要請があった文書に対しては,
イベント全体の組織と, レース運営の組織の業務分担
及びそれに伴う財政負担の責任を明確にした覚書きを
HTB と交換すること等を前提として了承することと
してはいかがかの提案があり, 承認された。

なお, 現地での受入れ体制の整備に強い注文があっ
た。

③ニッポンカップ国際ヨットマッチレース

ニッポンカップ組織委員会から, 6月29日付でレー
ス主催の依頼があったことに基づき, 清水専務理事か
ら, 関東支部を中心に小委員会を設けて検討してきた
が, 昨年どおり承認するようお願いしたいと説明が
あった。

児玉財務委員長から, このレースは, 国内予選出場
チームを選抜するまでの費用は全額 NORC 持ちとな
っているが, スポンサーからの配分は期待できない
のかとの質疑があり, 小委員会並木理事から, 協賛金
は外国選手関連の費用としてつかわれており, 葉山マ

リーナも持出ししている旨、また、大儀見副会長からも、マッチレースのレベルアップという観点から、この際費用はNORC本部会計から充当してはどうかとの提案があり、国内予選出場チーム数の各支部割り振りは帆走、総務両委員会に一任する。費用およびその額は、財務委員会で検討する。ことで本レースは承認された。

また、今後の課題としては各支部ごとに年間スケジュールにマッチを組み込むなど、この新しいレース分野での取り組み方を検討することが提案された。

(2)NORC クルーザーレーティングルールの改正

渡辺技術委員長から次の説明があった。現行のクルーザーレーティングルールは、全国的に普及してきたが公式中に排水量が考慮されているので、軽排水量艇が極端に有利となる。この欠点を是正する為に最近SCANDICAPで採用している様に公式中に排水量を導入することを提案した。しかし、排水量の計測は、実施上、多くの困難があり普及のさまたげとなるので今年は見送り、SCANDICAPの実情を調査した上、来年再提案することにした。

(3)上告の手続きについて

石井ルール委員長から、上告の権利を否認する場合の手続き（上告料を含む）及び上告の提出先、処理方法等について資料により説明があり了承された。

上告の手続きについて

NORCルール委員会

①上告の権利を否認する場合の手続き

上告否認の申請は、帆走指示書の原稿を添えてN.O.R.C.本部に提出する。この申請はルール委員会の審査を経た後、会長の承認を得て発効するものとする。

②上告の提出先及びその処理方法

上告の提出先はN.O.R.C.本部とし、事務局は受理したら直ちにルール委員会に回報する。ルール委員会は、当該上告がI.Y.R.R. 78.2に従い抗議の当事者すべてに通告されているかどうか確認すると同時に、78.1に規定された資料が揃っているかどうかをチェックしなければならない。

③I.Y.R.R. 77.2について

ナショナル・オーソリティーの定める特定の期間
ナショナル・オーソリティーの規定した供託金
提出期限：当該プロテスト委員会の判決後2週間
供託金：1万円
とする。

以上

(4)最高審判委員会に関する規程について

石井ルール委員長から、最高審判委員会に関する規程案について資料により説明があり、若干の質議のうえ承認された。

最高審判委員会に関する規程

NORC ルール委員会

1. 目的 最高審判委員会は、外洋ヨットによるレースに関わる上告の裁決及び照会の回答を行うことを目的とする。
2. 構成 最高審判委員会は、7名～10名の委員をもって構成し、委員は会員の中から理事会の承認を得て、会長が任命する。
3. 委員 最高審判委員会の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。但し、委員の辞任等により新たに選任された委員の任期は前任委員の残任期間とする。
4. 機能 最高審判委員会は、IYRR-77に基づいて提出された上告を取り扱うものとする。
5. 運営 最高審判委員会は、委員定数から利害関係者を除く委員の2/3以上の出席をもって成立し、議長は出席委員の中から互選により選任される。最高審判委員会の議決は出席委員の多数決をもって行うものとする。
6. 改訂 本規程を改訂する場合には、理事会の承認を必要とする。
7. 付則 本規程は昭和63年7月16日より実施する。

以上

なお、最高審判委員会委員については会長及びルール委員長が人選することが承認された。

(5)ナショナルジャッジの認定について

石井ルール委員長から、ナショナルジャッジの第一次申請は32名（関東10、近北8、内海5、駿河湾、東海、玄海各3）であり、資格を認定するための審査委員会を組織することとした旨の報告があり承認された。

(6)計測委員会報告

林計測委員長から、次の報告があった。クルーザーレーティングについて、ルールの明確化ルールブック改訂版を作成、レーティング計算プログラムの書き直しフロッピーディスクの作成配布、計測マニュアルの作成等を行った。

コンピューター・ワーキング・グループについては、IBM コンパティブル機、三菱電機コンピューターを購入、IOR オフィシャルプログラム及びIMS プログラムの作動を確認した。なお、香港から申し出があった機械計測で協力する件及びスタンダードレーティングの普及についても計測委員会が中心になって話しを進めることが了承された。

議題(1)スポンサー対応の基本的考え方について

清水専務理事及び朝河理事から、ジャパンカップの

冠スポンサーは、大きな労力を費して各企業を打診しているが、事業後援費が5,000万円ということと、レース日時が迫っていることもあって、今年は見送りたいという企業が多い。と説明があり、清水専務理事から、一般的にいってヨットレースのスポンサーとしてのイメージアップは、販売促進に大きなメリットがあるとの認識が企業に昇っている。このような状況であるので、スポンサーからの後援費の名目、受皿、金額等について、NORCの基本方針を確定しておく必要がある。これらの点についてご意見を伺いたい。名目は、事業経費としてすべての項目を含めるのか、あるいは実際経費と上のせ分(名目は、外洋ヨット振興基金(仮称))とに区分するのか、等考えてもらいたい。なお、これに関連して財団法人の設立を考慮したが、事業対象が二都府県以上にわたると国の認可となるのでむづかしい。等説明があった。

これに関連して、公益法人の事業活動とそれに伴う財政活動は、イベントを業としている事業体の場合とは当然違う、社団法人としてのそれなりの整合性と範囲の中で行われるべきであるとの提言があった。

児玉財務委員長から、後援費についてはレース以外のイベント部分の会計処理がむづかしいので、後援費の対象は、定款の目的であるレース関連事項にしばった方がよい。また、会員のボランティア費を経費に換算する会計作業は非常に大きな事務量となる。

鈴木理事から、レースの冠スポンサーとレースの放送スポンサーとの問題を明確にしておく必要があるとの指摘があった。

石井理事から、本部レースと支部レースの違いはあるが、事業予算の規模にあまりにも差がありすぎる。等多くの提案提言があった。

以上を総括して大儀見議長から、多くの有意義な問題提起があったが、結論は出ていない。総務、財務両委員会で検討し、次回に提案してもらいたい旨提案があり了承された。

議題(3)その他について

(1)アドミラルズカップ小委員会の設置

大儀見国際小委員長から、アドミラルズカップ出場的意思表示をしている艇もあるので、国際小委員会の中にアドミラルズカップ小委員会を設け、対応したい旨提案があり承認された。

(2)多胴艇の入会について

清水専務理事から、多胴艇の入会申し込みが来ている。定款等に基づき検討した結果、入会を受け付けようと思っている旨提案があり承認された。

(3)官庁及び団体との協議会について

清水専務理事から、運輸省、小型船舶検査機構等の主催する委員会、協議会等へNORC会員が出席し、外洋ヨット団体としての意見を種々反映させている旨の発言があった。

また、各委員会での活動についてはOff shoreに逐次報告し、会員各位への徹底をはかることにしては、との提案があった。

他に質疑意見等はなく、以上で審議を終了し、1705第106回理事会を終了した。

上記議事録に誤りのないことを証明し、記名押印する。

昭和63年 7月16日

議長 大儀見 薫◎

署名人 児玉 萬平◎

署名人 鈴木 康之◎



リバティー・カップに参加して

艇長 田中良三

このレースのために我々は6月より約1ヵ月間集中的な練習を続け、特に後半の2週間はニュージーランドよりロイ・ディクソン氏を招き、我々のチームのために個人指導をしていただきました。厳しい練習を繰返し、今までにない緊張感をもってレースに臨むことが出来ました。

最初、私は相手が各国を代表する強力チームであるため、スタートから押え込まれてしまうのではないかと考えていましたが、特訓のおかげで11レース中3レースのスタートは我々が取り、4レースは相手有利、残り4レースは同じという状態でした。風上マークでは4レース我々が先行しましたが、スピニングとランニングのスピード、ジャイピングのタイミング、風下マーク廻航時のスピードに問題があり、一勝も出来

なかったのは残念です。

今後の課題としては、フリーでのスピードアップ、チーム内のコンビネーションを強化することを重点にトレーニングを進めていきたいと思います。

結果

1位 Gary Jobson(アメリカ)	10勝1敗
2位 Pelle Petterson(スウェーデン)	9勝2敗
3位 Bortrand Pace(フランス)	7勝4敗
4位 Peter Gilmour(オーストラリア)	6勝5敗
5位 Greg Tawastsjerna(カナダ)	5勝6敗
6位 Brad Butterworth(ニュージーランド)	4勝7敗
7位 Tim Law(イギリス)	3勝8敗
8位 田中良三(日本)	0勝11敗

ヨットの航行安全 の 確保について

NORC専務理事
清水栄太郎

7月23日横須賀沖での重大海難の発生はまことに遺憾なことであります。これに関連して運輸省から別添のとおり文書（運海第153号及び運技第140号）による指導を受けております。

会員各位におかれては、このような事故がないよう、船舶交通の輻輳する海域はもちろんのこと、他の海域においても、海上交通ルールの遵守、救命設備等の備え付け等安全の確保について、じゅう分留意してください。

なお、運海第153号では、「海の旬間」期間中とされていますが、主旨は、年間を通じての留意事項である。との連絡を受けていることを申し添えます。

また、現在法政委員会を中心に運輸省と定期的に連絡会をもっていますが、8月は、航行安全問題を議題として討議する予定であります。

(社)日本外洋帆走協会会長殿

運海153号
昭和63年 7月25日
運輸省運輸政策局長

「海の旬間」期間中における各種行事の実施にあたっての留意事項について

去る7月23日(土)横須賀沖において、不幸にして潜水艦と大型釣り船との衝突事故が発生し重大な事態が生じたことは、極めて遺憾なことであります。

このような事態に鑑み、「海の旬間」期間中における各種の広報活動の実施に当たっては、下記の点について、特段の配慮を払うよう留意するとともに、傘下団体関係者に対する周知徹底方よろしくお取計らい願います。

記

1. 各種の広報活動において、特に海における安全性の確保の重要性について、改めて注意喚起するよう努めること。
2. 海上において行う各種イベントの実施に当たっては、安全性の確保に万全を期すこと。

社団法人 日本外洋帆走協会
会長代行 大儀見 薫殿

運技第140号
昭和63年 7月27日
運輸省運輸政策局長
塩田 澄夫

船舶航行の安全に関する当面の措置の実施について
今般、政府の第一富士丸事故対策本部において、別紙のとおり「船舶航行の安全に関する当面の措置」が決定されました。

つきましては、貴会におかれまして下記事項について、傘下会員に対し周知指導の徹底を図り、船舶航行の安全の確保に万全を期されるようお願いいたします。

記

- (1)常時適切な見張りを行うこと
- (2)周囲の状況に応じて安全な速力で航行すること
- (3)避航義務を負う場合には適切な避航動作を十分早期に取るなど海上交通ルールを忠実に遵守すること
- (4)救命設備等を法定どおり備え付け、かつ旅客等が使用しやすい状態に保っていること
- (5)緊急時における旅客の避難誘導、連絡通報等の応急処理体制を十分に整えていること

船舶の安全に関する当面の措置

第一富士丸事故対策本部
昭和63年 7月27日

第1. 民間船舶

1. 目的

第一富士丸事故の重大性に鑑み、当面の事故防止対策として、船舶航行の安全に関する集中指導を実施する。

2. 期間

集中指導の期間は、昭和63年 8月1日から昭和63年 8月31日までとする。

3. 指導事項等

- (1)常時適切な見張りを行うこと
- (2)周囲の状況に応じて安全な速力で航行すること
- (3)法令に従い適時に適切な動作を行うなど海上交通ルールを忠実に遵守すること
- (4)救命設備等を法定どおり備え付け、かつ旅客等が使用し易い状態に保っていること
- (5)緊急時における旅客の避難誘導、連絡通報等の応急処理体制を十分に整えていること

特に、船舶交通の輻輳する東京湾、伊勢湾、大阪湾及び瀬戸内海を重点対象海域とし、カーフェリー、旅客船及び遊漁船等（漁船との兼用船を含む。）の船舶を重点対象船舶とする。

4. 実施要領

関係事業者及び関係団体に対し、安全関係法令遵守の徹底を指導すると共に、訪船等によりこれら法令の遵守の徹底を図るため必要な指導・取締りを行う。

第2. 自衛隊の艦艇…略

Marine '99計画

運輸省

- レクリエーション活動の活発化や多様化の中で、我が国にも本格的な「マリン」の時代が到来しようとしています。
- しかし、日本の海洋性レクリエーションは、欧米諸国に比べればまだまだよちよち歩きの状況。ヨット、モーターボートの普及やマリーナ、客船などの整備も大変遅れています。
- 海洋性レクリエーションに必要な不可欠な安全性の確保についても、今後は一層積極的に取り組んでいく必要があります。
- Marine '99（マリン・ナインティ・ナイン）計画は、運輸省が1999年を目標に90年代を通じて行う海洋性レクリエーション発展の基盤づくりのための総合計画です。
- Marine '99計画の5つの柱

1 プレジャーボート保管機能の充実

- 1999年までの間に、プレジャーボートの保管需要は少なくとも40万隻程度になると推定されています。
- 運輸省では、これに因應するため、従来から行ってきた公共マリーナや民間マリーナの整備を一層促進します。さらに、港では小型のヨット・モーターボート係留施設であるプレジャーボートスポット（PBS）の整備を、また内陸部ではプレジャーボートの陸上保管施設と海への輸送体制（ハロー・マイボート構想）の整備を各々進めます。
- 一方、マリーナを安全性に優れた質の高いものとするために、新たに優良マリーナ制度を導入し、計画的にプレジャーボート保管機能の充実を図っていきます。

	1988年 (昭和63年)	1989年 (昭和64年)	1999年 (昭和74年)
優良マリーナ制度の導入			
公共マリーナ整備の推進			
民間優良マリーナの整備の推進			
プレジャーボートスポットの整備の推進			
ハロー・マイボート構想の推進			
制度面の整備や舟艇管理のあり方など			

2 ウォーターフロント空間の魅力の増進

- ウォーターフロントは、海とのふれ合いを楽しむことにより市民生活にうるおいを与える場所として貴重な存在となっており、各地でレクリエーション向けの港づくりも進んでいます。
- 運輸省では、人工海浜、フィッシャーマンズワーフ、ウォーターフロント、プロムナード、港湾文化交流施設、ウォーターフロント船などの整備によりウォーターフロント空間の充実、大規模な海洋性レクリエーション開発の促進を図ります。
- さらに、ポート天国やレクリエーション水域の整備、海の祭典などのイベントの実施などを通じて、ウォーターフロント空間を手軽に楽しめるレクリエーションの場として魅力ある存在へと変化させていきます。

	1988年 (昭和63年)	1989年 (昭和64年)	1999年 (昭和74年)
人工海浜、フィッシャーマンズワーフ、港湾文化交流施設等の整備			
ウォーターフロント船等の整備			
港湾における歴史的建築物等の活用			
大規模な海洋性レクリエーション開発の促進			
ポート天国、レクリエーション水域の整備			
イベント開催の推進			

3 安全性の確保

- ヨットやモーターボートの普及は年々進んでいくことが予想されます。また、若い女性を中心にスキューバダイビングやマリンスポーツなどのニュータイプの海洋性スポーツの人気も高まる一方です。
- しかし、このようなスポーツタイプの海洋性レクリエーションは海洋という自然を舞台にして行われる冒険的レクリエーション活動であり、これらが盛んになればなるほど安全性の確保に万全を期すことが要請されます。
- 運輸省では、スキューバダイビングの安全指導、児童・生徒を対象とした安全教室、巡視船艇による訪船指導や安全パトロールなどを通じて安全性の確保を図るほか、指導員の質の向上やプレジャーボート修理体制の充実についても検討を進めていきます。

	1988年 (昭和63年)	1989年 (昭和64年)	1999年 (昭和74年)
スキューバダイビングの安全指導			
安全教室の開催			
訪船指導、安全パトロール等			
海洋性レクリエーション指導員の質の向上			
海上イベントの安全指導			
プレジャーボート修理体制の充実			

4 インフォメーション提供体制の強化

- 海洋性レクリエーションが安全かつ快適に行われるためには、気象・海象情報、イベント情報をはじめとするインフォメーションの提供体制を整備することが必要です。
- 運輸省では、波浪予測、台風進路予測、週間天気予報などをより正確に、より詳細に提供できるよう努力します。また、「海の相談室」による海洋情報の提供や万一の事故発生時における情報連絡体制の強化を図ります。
- さらに、海洋性レクリエーションに関する総合的なインフォメーション・ネットワークの整備に向けて検討を進めていきます。

	1988年 (昭和63年)	1989年 (昭和64年)	1999年 (昭和74年)
気象・海象情報の提供			
「海の相談室」による海洋情報の提供			
事故発生時の情報連絡体制強化			
総合的なインフォメーション・ネットワークの整備			

5 クルーズ需要への対応

- 海の魅力を味わいつくすことのできるクルーズ（客船旅行）の機会は、日本人にとって今まで必ずしも十分ではありませんでした。
- 運輸省では、外航客船や国内遊覧船の整備によってクルーズ需要に応じる一方、旅客船ターミナルの整備や外国の豪華客船の誘致などを通じてクルーズを国民にとって身近なものにするよう努めます。
- さらに、クイーンエリザベス2世号をはじめとする世界の豪華客船をさまざまなイベントなどに活用する事業に対し積極的に協力していきます。

	1988年 (昭和63年)	1989年 (昭和64年)	1999年 (昭和74年)
外航客船の建造促進			
国内遊覧船の建造促進			
旅客船ターミナル等の整備			
豪華客船の誘致の促進			
豪華客船のイベント等への活用			

ドイツ語をしゃべる魚達

ハウアユー?



玄海支部 片倉静江

グーテンターク!



24年前東京オリンピックの年の8月にルフトハンザ福岡支店開設、私は同時入社し、そして、ソウルオリンピックの今年閉鎖、退職しました。私としては、来年開催されるニュージーランド・フィジー・グアム・福岡ヨットレースのお手伝いをする為には、何がなんでも航空会社の割引き券を使って、現地に飛ぶつもりでした。日本航空、ニュージーランド航空、エールフランスその他主要航空会社の路線が9割引きで乗れたのに…。もちろん会社側の都合による閉鎖ですから、一生使える9割引きの特典カードは貰いましたが、ルフトの路線のみになります。残念です。

ここ数年間、良い売り上げだっただけに、いきなり「合理化」をふりかざされても戸惑いますよね。まあ、宮任えの悲しさ、仕方ありません。とにかくエベレストの頂上にコンピューターが設置されても驚かない位、コンピューター化されたこの地球上で、自社の飛行機が就航していない都市の支店の無意味さ、わかります。運賃面から見ても、ヨーロッパ往復の冬場の団体運賃が25万で、福岡・成田間は、日本航空に4万いくら払う事になります。25万から5万? 痛いです。シェアを比べると、東京支店が56%、大阪が38、名古屋4、福岡2、「2パーセント? 閉めっちゃまえ!」になりますね。とにかく定年1年半前でたし無駄な抵抗はやめ、上乗せを貰って退職しました。

閉店前の6月に、閉店パーティをするって言われたときは驚きました。オープンならいざしらず、何もパーティまでせずとも葉書で充分だし、また福岡は、オープニングパーティをやっていないので有名なんですよ。「面白い! その閉店パーティ是非取材させて下さい!」と、ある報道関係の申し込みを受けた時は慌てました。お別れパーティには、業界の方々70数名がご出席下さいましたが、出席された皆さん、私達職員三人との話題に困ったのではないのでしょうか?

会場では、まずドイツ人の支配人が閉鎖に至る迄の経緯をかなり詳しく述べた後、福岡の支店長(日本人)が、閉鎖なんて営業成績が悪い時とばかり思っていたが、売上げが良くても起こることもあるのに驚いた、不本意ではあるがやむをえまいと。口惜しさ、無念さをもっと言いたかったでしょうが、日本語がわかるドイツ人が出席していましたので控えた様です。そのあと、東京支店に単身赴任する職員がマイクを持ちましたが、もともと人前での挨拶が苦手な彼、まるでタイソンのノックアウト並でわずか2、3秒で終わりました。そして私め、真打ち登場です。



「皆さん長い間大変お世話になりました。この場を借りまして、私個人として御礼を申し上げたい事がございます。それは、この業界での24年間、一度も不愉快な思いをさせられた事が無かった事です。本当に楽しく働かせて頂きました。(シーンとなる)…つまり、それは、私が美人だからですよ? (何故か全員どつと笑う) さて、今支配人が閉鎖に至る迄の経緯を話しましたがあれは違います。真実を話しましょう(皆ギョツとして支配人を見る) 閉鎖された後、私はすぐ来年開催されますニュージーランド・福岡ヨットレース事務局のお手伝いをする事になっており、レース終了が来年の6月、不思議な事に失業保険が切れるのも6月、今回の閉鎖、ヨットクラブとルフトの陰謀だと思いませんか? ただ働きさせようとして? (また笑う? 重大な事なのに) ルフトから頂くサラリーは全部朝鮮海峡と玄界灘にバラまいてきました。皆さんご存じですか? 玄界灘の魚達、ドイツ語ペラペラですよ? 冗談はさておき、本当に長い間有り難うございました。最後にひとつだけ、恨み、つらみを言わせて下さい。それは、この長い長い24年間、誰一人として私に結婚を申し込まなかった事です。」

38年間働きつづけた私にとって、仕事は趣味です。ヨットを始めてからはなおさら強く感じます。ヨットが仕事ですよ。世はまさにマリーナレジャー産業の幕開け、もっともっと仕事にはげみ、お金を海にまきちらしましょう。ニュージーランド艇や外国艇が入港する来年の6月迄に、今度は魚達に英語も教えなくちゃ! 下記はそのオークランド・福岡ヤマハカップヨットレース1989のスケジュールです。

第1レグ オークランド・スバ(フィジー)

4月22日～5月7日

第2レグ スバ・グアム 5月9日～6月11日

第3レグ グアム・福岡 6月13日～7月8日

問い合わせ先: 福岡市西区小戸3-58-1市立ヨットハーバー内 レース委員会事務局 TEL 092-882-5055, FAX 092-881-2344

西内海支部に呉フリート誕生!!

広島県呉市といえば、あの軍艦“大和”が建造されたまち、多くの戦士たちを育てたまち、そして今、巨大タンカーをまるごと活用するという「呉フェニックス計画」で、リゾートシティとしてよみがえろうとしているまちでもあります。

このまちにこのたび NORC 西内海支部の呉フリートが誕生することになりました。

フリートキャプテンは(鯨)のオーナー山下文徳さん(TEL 0823-52-0335)です。

全国の会員の皆さん、ぜひ一声かけて、海を愛し、海で戦った先人の歴史をしのぶ機会をつくって下さい。喜んでご案内いたします。

頒布物品の紹介

申し込み先：(社)日本外洋帆走協会

〒105 東京都港区虎ノ門1-15-16

船舶振興ビル4階

☎(03)504-1911

盛夏の候を迎え会員の皆様方お変わりないでしょうか。頒布物品購入について下記の通りにてお知らせいたします。尚、購入時に際しましては現金書留にて購入商品名と個数を明記して送付して下さい。

お申込み、お問合せは本部事務局まで
 エンサイン…5,000円/クラブ旗…2,000円/レース旗…2,000円/エンブレム…8,000円 艇名・セール番号入りは10,000円(納品まで1~2ヵ月かかります)/クラブバースネクタイ…5,000円/クラブバースバッジ…2,000円/クラブバースタイピン…3,000円/クラブバースシール…500円/丸型シール…500円/長方型シール…300円/レーダーリフレクター…4,000円/レトロリフレクティブ材(1セット10枚入り)…2,000円/1987年石原裕次郎メモリアルレーステレホンカード…1,000円(残りわずか)/1987年 JAPAN CUP テレホンカード…1,000円(残りわずか)

お詫び

前号(7月号)CR委員会の記事で、石井委員長とあるのは石井委員と訂正させていただきます。CR委員会武田勝彦委員長、同石井委員、及び読者諸氏に御迷惑をおかけしました。

なお、ケンウッドカップ出場のクルーの氏名を掲載しましたが、いくつかのまちがいがありました。

以上二点関係各位にお詫びいたします。

編集委員会

新登録艇の紹介

セール番号、艇名、帆装、フリート、全長×水線長×巾×吃水、オーナー名、その他の順
 ☆印は会友艇

3898 AEOLUS Y30C II SH 逗子マリーナ 8.97×7.36×3.18×3.535 飛鳥建設株式会社/艇名の由来：ギリシャ神話の神「AEOLUS」(エオラスと読みます。日本ではイオロスと読むこともあります)からとりました。/抱負：鳥羽パールレースなど、楽しく参加できるレースに積極的に参加していきたいと思っています。また、海と船を通じて色々な方々との交流を広げたいと考えています。/クルー：まったくの初心者からチームを結成し、3年目を向かえて、ようやくヨット部と呼べるレベルになりました。現在女子チームも含め20余名。/NORCへの要望：できれば同じクラスの船で、お互いに練習のできる船をご紹介いただきたいと思います。

3806 CHAPPY Y-26SS 三菱重工横浜 7.98×6.25×2.80×1.50 福山和勇/艇名の由来：初めて艇を購入した時、業者の方に艇名は女性の名前を付けるのが多いと言われましたが、当時は彼女等はいませんでしたので、我が家のトラ猫、チャッピーの名前をつけました。/抱負：当面は東京近辺のレースにできるだけ参加し、技量向上に努めたいと思います。/クルー：大塚規之…マネージャーでマスト登りの達人、加納岳志…新人監督「歯を見せるな!」、その他数名。/NORCへの要望：ヨットがもっと身近なスポーツになるように世間にアピールしていただきたいと思います。

OFFSHORE 第161号 昭和63年 8月15日発行
 毎月1回15日発行
 昭和52年 7月21日 第三種郵便物認可
 1部定価300円(郵送料45円)

発行 社団法人 日本外洋帆走協会
 東京都港区虎ノ門1-15-16(船舶振興ビル4階)
 電話・東京03(504)1911~3 〒105
 郵便振替番号 2-21787
 印刷 正進社印刷株式会社

Fast Handy and Comfortable Racer-Cruiser.

The BALTIC 35

北欧のクラフトマンシップが生んだ
世界ファーストクラス。

世界の男達を魅了し続けるBALTIC YACHTS。その最高峰のテクノロジーと北欧のこだわりが、この艇のすみずみにいたるまで息づいています。徹底的に練りあげられた居住性、操作性、そしてあくまでも華麗なハルライン…。I.O.R.デザイナー、ユードル・ヴローリックが手がけた走りの正統、NEWバルティック35。

軽量、そして優れた耐久性。

厳選されたマテリアルと独自の工法により、40%の軽量化、150%のハル強度を実現(G.R.P.製同型艇比)。コストか品質かという選択では、断固として後者を優先させる。決して妥協を許さない「質」へのこだわりから生まれた確かな手応え。走りの喜びを余すところなく味わえ、乗る人を選ぶステイタスヨットです。

MAIN DIMENSIONS

L.O.A.....approx.	10.64m	34.90ft
L.W.L.....approx.	8.75m	28.70ft
Beam.....approx.	3.50m	11.48ft
Draft.....approx.	1.85m	6.07ft
Displacement.....approx.	4,480kgs	9,877lbs
Ballast.....approx.	1,880kgs	4,145lbs
I.....approx.	12.45m	40.85ft
J.....approx.	3.85m	12.63ft
P.....approx.	12.65m	41.50ft
E.....approx.	4.55m	14.93ft
I.O.R. Rating.....approx.		25.7ft

ただいま価格を修正中です。フィンランドマルカに対する為替レートが安めに推移しております。御購入は是非この機会に

Design : Judel/Vrolijk, & Baltic Yachts



お問い合わせ、資料請求先は

バルティックヨット ジャパン(株)

●本社：〒531 大阪市淀川区津6丁目7-18 Tel.(06)454・3881(代) Fax.(06)454・3888 Tlx.J64980 ●東京オフィス ●香港オフィス
●フィンランド：P.O.Box2320,SF-6855 Bosund Pietarsaari Finland Tel.(9)67・83070 Fax.(9)67・83216 Tlx.7562 yachtsf.